校章の由来
県立三中を意味した三つの剣を組み合わせ、初代大屋校長の考えで剛健・真剣・勤倹の三けん、更に智・仁・勇の三徳を兼ねた象徴として用いられて来た

厚高同窓会々報

<第57号> 2023年（令和5年）9月1日（金）発行
http://www.atsukou-dousou.org

旧制中学卒業者　3,915名
新制高校卒業者　28,891名
合　　計　32,806名

発　行
神奈川県立厚木高等学校同窓会

編　集
厚木高等学校同窓会広報委員会
TEL 046（221）4078
FAX 046（222）8243

創立120周年記念号 “世紀を超えた　熱き思いの軌跡”

定年後、郷里北海道で写真家に〝大変身〟
中野 實 氏（高11回）

「長いこと数学教師をしていて、定年の65歳を過ぎたら日本中を放浪して写真を撮りまくろうとの当初の計画通り本当に実行、未だに実行中。四国八十八箇所などを蛇腹式の大判カメラで撮影、私の生まれ故郷北海道東川町の文化ギャラリーで展示したのをきっかけに、東川町に移住して10年以上が過ぎた。」と中野實氏の言葉。東川町は「写真の町」、約30年前に始まった全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園」で有名だが、近年は移住してくる人も多く氏も縁ある人たちとの幸多き出会いを楽しんでいる。左の写真展略歴に「ギャラリーコンサート」とあるが、楽曲を演奏してくれるのは旭川フィルハーモニーのメンバーで、中野氏のいとこも習った元音楽教師の中学校長やその教え子の小学校教師、東川町で数学の話ができる数少ない友人の元旭川市役所職員、町田市の玉川学園を卒業した元音楽大学教師、かつて厚木高校近くにあった昭和音楽大学を卒業したピアノ教室を経営する女性など、中野氏とはどことなく縁がある人たちである。この時は鉄道写真展だったので、趣旨に合わせて鉄道唱歌や童謡を校長自ら指導する町内合唱団と来場者全員で大合唱したら、その様子が翌日の『北海道新聞』に2Lサイズのカラー写真入りで紹介されて皆大喜びだったという。中野氏は東京工業大学大学院のご出身でデジカメ写真加工には数学、中でも「フーリエ解析」が関係あるという。本業は慶應義塾大学理工学部数学担当。そのほか東京工業大学、東京工芸大学（旧東京写真大学）、日本女子大学などで教鞭を執った。

広報委員　梶野眞知子（高23回）

<写真展略歴>

2010　1. 7~26　四国八十八箇所霊場巡り（A3ノビ全紙約200点）
（以下の展示はA3ノビ約20～50点）
2011　4. 1~21　北海道八十八箇所霊場+高野山
2012　2.20~3. 3　東川町の四季
2013　11.27~12.12　JR最長各停列車2429D号で行こう
2014　3.17~29　就実の丘 白樺・赤屋根・影を撮る試み
8.16~30　就実の丘4本の木
12.15~28　各停列車の旅 宗谷本線53駅
2015　7.16~29　十勝岳連峰のハート・オプタテシケ山
11.29~12.13　各停列車の旅 石北本線40駅＋1
2016　2. 9~28　四国八十八箇所巡り・阿波国 土佐国
3. 2~27　四国八十八箇所巡り・伊予国 讃岐国
6. 1~15　美瑛・妙見四本ドロノキ
11.27~12.12　留萌本線の旅・今日なくなる増毛駅（ギャラリーコンサート）
2017　6. 1~15　美瑛・ピースの木　6.20~30　宗谷本線の旅（中川町・ギャラリーコンサート）
11.27~12.12　小樽⇒旭川・最後の直行各停列車（ギャラリーコンサート）
2018　2. 5~17　美瑛・赤羽ポプラ
2019　2. 5~11　道北41市町村庁舎写真展
3. 4~14　美瑛・青い池
2020　2. 4~10　道東50市町村庁舎写真展
3.17~26　美瑛・MildSevenHill—BeforeAfter
8.17~29　美瑛・美田の森
2021　2. 9~15　道央52市町村庁舎写真展
5.31~6.12　美瑛・セブンスターの木
11.23~29　道南36市町村庁舎写真展
2022　10.17~28　旭川空港
2023　9. 4~16　美瑛・ポプラ並木

この他にも合同写真展示会、東川町文化祭などに10回以上出展。農協の写真展では入賞して米や野菜を貰うことが何度かあった。

新たな歴史へ一歩
創立120周年式典　同窓生の思い継承へ

同窓会会長　熊坂　隆光（高19回）

私たちの母校、神奈川県立厚木高等学校の新しい、そして力強い歩みが始まりました。

昨年、創立１２０周年を迎えた母校の記念式典が去る6月29日、厚木市文化会館で全校生徒が参加して開かれ、生徒会長宮崎俊太君の力強い挨拶や研究成果発表、部活動発表などが行われました。また、平野公崇氏（高40回）が作曲した１２０周年記念作品「戸陵の桜」が吹奏楽部により披露されました。１２０年の歴史の上に、さらに新たな歴史を創造していくという決意みなぎる式典となりました。

私たちの母校は創立以来、様々な試練を乗り越えてきました。その歴史のすべてが大きな絆、力強い連帯、だれにも誇れる伝統として結実しております。この間、戸室が丘を巣立っていった同窓生は旧制中学時代も含め3万３０００人に及びます。その一人一人が「剛健、真剣、勤倹」という開学以来の校訓を胸に、様々な人生の風雪を積み重ねてまいりました。そうした同窓生の思いと伝統を後輩の皆さんがしっかりと受け継いでくれていると確信いたしました。

同窓会は１２０周年を記念して「グラウンド照明一式」を贈呈いたしました。夕暮れになっても懸命に走り、跳び、ボールを追う後輩諸君の大きな励みになると思います。同窓生の皆様の１２０周年記念募金の一部を充当させていただきました。ご協力に感謝いたします。

コロナ禍で延期や中止になっていた各地の戸陵会行事が再び動き始めました。久々の対面形式での集まりに参加された皆さんの喜びは言葉には表せないものがあります。同窓会主催の記念式典と記念行事も9月16日にレンブラントホテル厚木で開かれます。「青春かながわ校歌祭」など対外的な行事もほぼかつての様式を取り戻して開催される予定です。節目の時に当たり、母校のさらなる発展を応援するためにも、同窓会活動を盛り上げていきたいと思います。

◇　◇　◇

去る6月10日開かれた同窓会総会で会長に再選されました。引き続き母校の発展と同窓会の活性化のために微力を尽くす決意です。同窓生各位のご協力を改めてお願いいたします。

本部活動報告
同窓会の20年を振り返って

同窓会前副会長　石塚　修（高28回）

創立１００周年を2年後に控えた２０００年に息子（高55回）が母校に入学し、平成14年（２００2年）にPTA会長を仰せつかったことがご縁となり、平成17年（２００5年）に小澤澄男氏（高３回）が同窓会長に就任の際に、同窓会事務局員として同窓会活動の裏方を支える役割を仰せつかることとなった。

小澤新体制として同窓会活動がスタートし、事務局としてまず初めに取り組んだのは、「同窓会の運営のための中核」である「同窓会会則」の策定作業であった。

厚木高校同窓会会則の以前からの会則は、役員会に大きな権限が集中し課題も多かったことから、全国の伝統校の同窓会会則を取り寄せ、協議が始まった。

新しい会則には、審議機関としての理事会を設置し、同窓会活動の原資となる財源を確保するための年会費の負担を定めた条項をあらたに加えるなど、現在の同窓会活動の礎を築くための仕事に従事できたことは、事務局冥利に尽きるものとなった。

また、同窓会ホームページの作成も担当し、『神奈川県第三中学校創立略史』をホームページに掲載するために、同窓会名簿を改めて読み返すこととなった。起稿者・霜島久圓氏は創立略史の文末に『未来永遠に本校より済々たる多士を輩出し、直接間接に国利民福の増進を図るに至るは勿論なりとす』と記しているが、今もなお、優秀な人材を輩出している母校を思うとき、霜島久圓氏の思いが１２０年後にもしっかりと継承されていることを改めて感じる次第である。

なお、霜島久圓氏の墓所は、厚木高校北側の浄雲寺にあり、今でも母校の様子を静かに見守っている。

次に思い出深い事業として昨年10月に第17回目の開催となった「青春かながわ校歌祭」における厚木高校の参加と応援団ＯＢ会並びに吹奏楽部ＯＢの参加である。

青春かながわ校歌祭は横須賀、湘南、小田原、横浜平沼、希望が丘、横須賀大津、横浜翠嵐、そして厚木高校が中心となり２００５年７月22日に神奈川校歌祭（仮称）準備会からスタートし、当時の近藤俊二副会長（高６回）が本校同窓会の代表として出席、私も翌年の第２回実行委員会から、参加することとなった。

記念すべき第1回の校歌祭は、２００６年10月21日に神奈川県立青少年センターにて開催され、校歌祭運営組織の中で会場係を担当した。その後、第2回から第8回までは経理を担当し、実行委員会において予算・決算等の説明を担当した。湘南、翠嵐、希望が丘など県内の同窓会役員の皆さんとの交流は、事務局の立場で同窓会の運営について大いに参考になった。

途中コロナでの中止があったものの、２０２２年で17回目を数えた校歌祭の中で思い出に残る校歌祭といえば、やはり地元開催となった厚木市文化会館で開催された第4回大会が印象深い。

当日、大ホールの大舞台には２００名の同窓生が勢ぞろいし、左右の花道には在校生80名、そして観客席40名、総勢３２０名が参加し、応援団ＯＢ会阿部洋氏（高22回）の指揮のもと、校歌を斉唱し感動のステージとなった。

今後とも、微力ではありますが同窓会並びに母校の発展に寄与することができるよう努めてまいります。

本部活動報告

会則や組織等を検討

女性役員を初めて選出

平成18年8月発行　会報第40号より

左右の花道にも在校生が整列、圧巻の演技を披露した第４回校歌祭

創立120周年記念募金へのお願い

創立120周年という節目の年を迎え、次のとおり母校支援事業を計画し、「創立120周年記念募金口座」を開設しましたので、皆様方のご理解、ご協力をお願いいたします。

1.　母校支援基金の充実
　毎年、関東大会、インターハイ等の全国大会に出場する生徒・クラブに対して支援を行っており、100周年以来の基金積み立てを目指すものです。

2.　母校教育設備等の充実
　SSH（スーパーサイエンスハイスクール）等で活用する教育設備の充実を図っていくものです。

<募金の払込方法>

1.　金額　一口　5,000円（口数に制限はございません）
2.　振込先　金融機関
　①横浜銀行　厚木支店
　　普通　口座番号　6082219
　　（口座名）厚木高校記念基金（アツギコウコウキネンキキン）　代表　熊坂隆光

※恐縮ですが、振込手数料のご負担をお願いいたします。
振込みの際に、募金者の卒業回数をご記入ください。
領収書が必要な方は、事務局までご連絡ください。

１２０周年特集①

令和5年度同窓会関係記念行事

コロナ禍乗り越え、更なる絆深めよう

明治35年（１９０２年）４月13日、母校・県立厚木高校は、愛甲郡の人々の熱き思いに支えられ、戸室が丘に神奈川県第三中学校として開校しました。

その後、大正、昭和、平成、令和と時代は移り、初代大屋校長や霜島久圓氏の母校に寄せる思いは、〝世紀を超えて〟幾多の同窓生の胸中に宿り続けてまいりました。

コロナ禍で実施が1年先送りとなりましたが、２０２３年、創立１２０年という節目に数々の記念行事が企画され、我らが母校『厚木高等学校』の伝統を、次の１００年に向けて引き継ぐことができるものと確信しております。

１２０周年記念 地引き網会

地引き網会

晴天に恵まれ、令和5年5月4日（みどりの日）、コロナ禍や天候不順等で、開催が延期されていた第20回地引き網会が創立１２０周年記念行事として、藤沢市鵠沼海岸の堀川網で4年ぶりに開催されました。9時40分藤沢戸陵会大貫会長の「晴天の中、１２０名超の多数の会員参加のもと、地引き網会が開催できることを非常に喜ばしく思います。大いに皆さんに楽しんでいただきたいと思います。」との開会の挨拶がありました。

藤沢戸陵会と綾瀬戸陵会両会員の皆さんにより、バーベキュー用の肉、野菜、天ぷら、おにぎり、飲み物などが豊富に用意され、会食が始まる。久しぶりの再会でビールなどのアルコールが進むにつれ、戸室の丘辺で過ごした青春時代の思い出話に花が咲いたり、お互いの近況を語らい、話が尽きることなく続き、大いに盛り上がりました。そして10時に本日のメインイベントである地引き網の引き上げが開始。多数の大人や子供によって網が引き揚げられ、約30分かけて、クロダイ、カワハギ、カタクチイワシ、セイゴ、ハナダイ、ホウボウなどが大漁に取れ、会員皆様へのよいお土産となりました。歓談後、元応援団のエールのもと、校歌斉唱を行い、閉会の挨拶の後、解散となりました。

広報委員　渡辺真一（高21回）

令和5年度 通常総会開催

令和5年6月10日、レンブラントホテル2F「暁紅の間」において令和5年度通常総会が、3年ぶりに対面で開催されました。

総会開会に先立ち、物故者への黙祷が捧げられた後、小島信男副会長（高17回）の開会の辞、熊坂隆光同窓会長（高14回）の挨拶、及び大沢利郎校長の挨拶がありました。

その後、議長として梶山光男氏（高22回）が選任されて議事審議に入り、各種議案が若干の質疑応答があったものの、原案通り可決されました。

この内、本部新役員については、役員選考委員会からの報告・提案による新役員人事が、原案通り可決・承認されました。

なお、議事の途中には、甘利明衆議院議員（高20回）、高橋昌和秦野市長（高27回）の挨拶、及び後藤祐一衆議院議員（高39回）からのメッセージの披露（事務局代読）がありました。

また、議事終了後には、『第18回青春かながわ校歌祭』及び『創立１２０周年事業』についての案内が、ありました。

総会模様

その後、大貫睦男副会長（高17回）の閉会の辞で、令和5年度通常総会は終了しました。

通常総会終了後、会場を同ホテル2F　パーティールーム「アンシャンテ」に移して行われた懇親会は、井萱修巳副会長（高19回）の挨拶及び出席者中最年長である大貫邦重氏（高16回）の、乾杯の音頭で始まり、和気藹々の雰囲気の中、親睦を深めました。

なお、懇親会には、後藤祐一衆議院議員の挨拶がありました。

最後の校歌斉唱は、大沢校長の独唱に続けて、出席者が唱和する形で行われました。また、懇親会は校歌斉唱の後、廣木孝幸副会長（高19回）の挨拶で散会となりました。

広報委員　小島　聡（高33回）

学校主催創立記念式典

1年先送りとなった学校主催の創立１２０周年記念式典が、本年6月29日、厚木市文化会館大ホールで全校生徒約千名をはじめ職員、同窓会関係者が参加して開催された。

この式典の模様は、10ページの［学校情報］で紹介する。

同窓会主催記念式典、記念講演会、祝賀会

厚木高校の創立１２０周年を記念して同窓会（熊坂隆光会長）では、9月16日（土）にレンブラントホテル厚木で記念式典・記念講演会・祝賀会を開催する。記念講演会（アトラクション）、祝賀会のチケット代は1万円。

当日は午後1時半から式典（1時受付開始）。式典後には厚高OBで俳優の六角精児さん（高33回）による記念講演とアトラクション（バンド演奏）が行われる。

六角精児氏

続く祝賀会は午後3時50分からの予定。これらへの参加は事前申し込みが必要だが、当日受付も可能。問い合わせは同窓会事務局／志村（℡０９０―８５１１―０８０５）まで。

第18回 青春かながわ校歌祭

10月21日（土）正午から県立青少年センターにおいて、第18回青春かながわ校歌祭が開催される。青少年センターでは、4年ぶりの開催です。参加高校同窓会は、例年のように、26高校の参加となっている。厚木高等学校同窓会も参加の予定です。

なお、練習会は、9月24日（日）午前10時から厚木高校中庭で行います。

第9回 チャリティゴルフコンペ

第9回チャリティゴルフコンペ（厚木高校同窓会主催、厚木連合戸陵会主管）を10月23日（月）、本厚木カンツリークラブ貸し切りで開催する。

過去第6回から第8回まではコロナ禍にあって新しいスタイル（前半9ホールの成績で集計、パーティーなし）で実施して来たが、今回は従来のスタイルに戻し、パーティー付きで行う。

(1)開催日／23年10月23日（月）
(2)場所／本厚木カンツリークラブ（厚木市飯山１７００℡０４６―２４１―４１１１）
(3)プレー代／約１８０００円（食事代別）
(4)会費／４０００円（母校への寄付１０００円含む）
(5)罰金／上限１０００円（ペナルティー・3パットの場合２００円）
(6)募集人数／36組（１４４人）
(7)競技方法／変則ショットガン方式、新ペリア方式
(8)申込締切／9月22日（金）Fax０４６―２２４―８１４１（中山和男）
(9)その他／組み合わせは事務局一任で。当日キャンセル料３０００円

※同窓会HPをご確認ください。

憶い出の杜に親しむ会

4年ぶりの開催予定

毎年秋の同窓会恒例行事となっていたがコロナ禍で中止に。本年11月18日（土）、4年ぶりに開催予定。

愛川戸陵会主管のもと、半原南山の同窓林広場にて集い、その後レインボープラザ（愛川繊維会館）で懇親会を行なう。

１２０周年特集②

我が青春の思い出――多方面で活躍する卒業生

対談

「異色の経歴」厚高卒業生が、正統派古典の音楽劇に挑戦！

司会　木賀　美鈴（高36回）

来年２月に「TAMASHIZUME~情念の百人一首~」の舞台でタッグを組まれるさかもと未明さん（高36回）と森口賢二さん（高44回）の対談です。高校での思い出や現役後輩への思いなども語っていただきました。

（司会＝木賀） お二人は８年の年の差がありますが、どこで繋がったのでしょうか？

（未明） 卒業後30年の同窓会に行った時に、同じ放送委員会だった木賀君を通して八田君と再会し、後に彼が応援していた森口さんを紹介してもらったのがきっかけです。森口さんの声・歌唱力には華があり、今回の作品の時代コスチュームも大変似合い、風格も申し分ないと思ったので、お願いしました。

（森口） 今回の作品の着想・アイデアは良く、お話頂いた時はまだ荒削りな状態で不安もありましたが、引き受けるからには覚悟を決めてお引き受けしました。今まで築き上げてきたキャリアにプライドもあるので、きちんとしたものを作りたいと思っています。

（司会） お二人の高校時代の思い出をお聞きしたいと思います。

（森口） スポーツ全般得意でしたが、中学から始めた陸上を高校でも続けました。中距離、駅伝をやって、３年間アンカーを任され、県大会にも出ていました。音楽は小学生の頃にピアノを習ったくらいでしたが、高校で越川先生（音楽科）から影響を受けました。スポーツも音楽も好きで得意でした。大学受験の時に厚木高校の中では主流の「普通の大学」に行くことには抵抗があり、天邪鬼だったのかな？（笑）、自分の得意なものをやろうと考え、音大と体育大学の両方を受け合格しました。現役で長く活躍出来、また自分にとっては未知の世界である音楽を選びました。

（未明） 未知の世界…そうですよね、あまりよく知らないからこそ選択することが出来ることってありますよね。私もマンガの世界をよく知らなかったから飛び込めました（笑）。

厚木高校の生徒はいわゆるエリートだから、「降りられないレールに乗っている」場合が多いと思います。私なんかは、振り落とされてしまったから自由になり、好きな道を選べました。やりたいならやる、人生シンプルでいいんじゃないかしら。収入や老後を計算したら芸術なんか選べない。計算度外視でバカになることが、好きな道を生きたい人には必要です。

私は家庭の問題もあって、高校にはなじめず、高校時代にはあまり楽しい思い出がないのですが、今思い出しました！森口さんを紹介してくれた八田君とは保健室登校仲間でしたね。いろんな愚痴を言い合えて楽しかった。お互いサボっていたおかげでこの格調高い百人一首の舞台が生まれたのだから、サボりもよしとしましょうか？（笑）

（司会） 現在はお二人で一つの作品を作り上げようとなさっていますが、意気込み、そして後輩へのメッセージをお聞かせください。

（森口） 芸術には政治や武力では解決出来ないことも乗り越えられる力があると思います。自分は情熱とプライドを持って今まで音楽と関わってきましたが、大変なこともありました。それを乗り越えて来れたのもやはり好き、得意と言うことがあったからだと思います。自分の持てる力を是非発揮して、後輩の皆さんには怯まず、未知のことにも挑んでいって欲しいと思います。今回の作品もですが、いつも観に来てくれた人が心の中で何かを感じて貰えるように取り組んでいます。皆さんもやりたい！と思えるようなものに取り組んで頑張ってください。

（未明） この仕事はきつく、たくさん同業の友人を病気や自殺で失いました。でも、この世界にいることを後悔したことはありません。死ぬことを考えたら、出来ないことはないと感じます。そして、昔は死ぬことばかり考えていましたが、それは自分のことしか考えていなかったからだと、命は社会や人のために使うためにあると気付き、人生が変わりました。

皆さんには、リスクなど考えず、人生の志を立てて欲しい。テストの点の良い人が、有利な仕事につき、安心・安全に生きるのが成功ではないと思う。皆さんの優秀な能力をいかに社会の改善に役立てるか。困難や不正に立ち向かうか。そういうことを考えられる、気骨や熱い理想を持って初めて知力は志があって知性となり、魅力ある人、喜びある人生が作られます、出来ます。

ぜひ皆さんには真の知性を身に付け、混迷の最中にある日本と世界を変える、大河の一滴となっていただきたいです。私もその覚悟です。共に頑張りましょう。

（森口） 藤原定家も、自分でなく、他者のために百人一首を編みました。それをぜひお芝居で感じて欲しいと思います。

（司会） 本日はありがとうございました。舞台、期待しております。

今回タッグを組む２人

【プロフィール】

さかもと未明（高36回）

1965年　横浜生まれ、1984年厚木高校卒業。
1989年漫画家デビュー。たちまち脚光を浴び、その後執筆や日本テレビ「スッキリ」レギュラーコメンテイター等活躍の場を広げる。2006年難病である膠原病を発症。活動を停止する。一時期は余命宣告されるほどに悪化するが、アスペルガー症候群、ＡＤＨＤ、双極性障害も見つかり、治療しながら現在の夫と再婚。手厚いサポートで奇跡的に回復。
2015年に川島なお美ら、アーティストの親友三人を癌で失い、まだ動かない手で版画を始める。
2017年吉井画廊で画家デビュー。同時期に歌手として再起。
2018年バチカンの聖マリア・マッジョーレで、拉致問題解決を祈り「青い伝説」を歌唱。2020年紀伊國屋サザンシアターTAKASHIMAYAでコンサート。3thアルバムMOULIN ROUGEでミシェル・ルグランの息子、バンジャマン・ルグランとのデュエットを発表。日本・フランス現代美術館世界展で入選。2021、2022年、サロン・ドトーヌ連続入選。現在は日仏を往復しながら、「苦しみにある人に勇気を届ける」をテーマにアーティスト活動を続けている。

さかもと未明さん

森口賢二（高44回）

1992年厚木高校卒業。国立音楽大学卒業、同大学院修了。「ドン・ジョヴァンニ」のタイトルロールでオペラデビュー。日伊声楽コンコルソ、日本音楽コンクール声楽部門（オペラ・アリア）入選。文化庁新進芸術家海外留学制度に合格し研修員としてイタリアへ留学。ローマ・フェスティヴァル2007国際コンクール第1位。飯塚新人音楽コンクール第1位。これまでに出演したオペラは「カルメン」「アイーダ」「蝶々夫人」等、43演目55役。現在、藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。

森口賢二さん

チケット申込
QRコード
チケットぴあ
(Pコード 519-876)
紀伊國屋書店
※キノチケット

昨年11月に、山北町の共和地区に古くから伝わる民俗芸能「山北のお峰入り」を含む「風流踊り」が、ユネスコ無形文化遺産に登録された。世界に認められた民俗芸能に、本校卒業生で陶芸家の山本わたるさんが参加しており、寄稿して頂いた。

山本さんは陶芸家で、厚木高校卒業後、足柄焼の杉田栄助氏に師事し、1980年に出版された昭和陶芸図鑑にも作品が掲載された。山北町に「つぶらの窯」を作り移住した理由は、子ども時代の大半を山北町で過ごしたこと、自然の中の静かな環境で仕事をしたかったこと、釉薬に使う植物の灰を手に入れやすかったことだそうだ。

かつては松屋銀座店、伊勢丹新宿店等で作陶展を開いていたが、現在は年に2回、「つぶらの窯」で作陶展を開いている。またいくつかの作品が、山北町のふるさと納税の返礼品として使われている。

広報委員　劔持典子（高26回）

私と「お峰入り」

山本わたる（高29回）

「お峰入り」は神奈川県山北町の共和地区（昭和30年代までは共和村）に伝わる、神明社という神社の奉納芸能で、一説によると南北朝時代より伝わっていると言われています。昭和56年に国指定重要無形文化財に指定されてからは保存会が作られ、定期的に公演が行われるようになりました。演技は8種類11演目があり、「天狗」「獅子」「おかめ」「山伏」「笛・太鼓」「棒踊り」「神輿」等の役を約80名の男性が演じます。

私が仕事場をこの共和地区に移したのが平成3年で、地域とのかかわりの中から「お峰入り」に参加することになりました。平成8年は「棒踊り」平成14年は「神輿」平成19年、24年、29年は「太鼓持ち」をしました。「棒踊り」は「笛・太鼓」と一緒に8月のお盆明けから10月の公演まで2か月間の練習があり、6人で踊ります。「神輿」は8人で担ぎ、御神前に据えたりします。「太鼓持ち」は背負子に取り付けた太鼓を背負い、太鼓を打つ撥を持った人の前に立つ役割です。

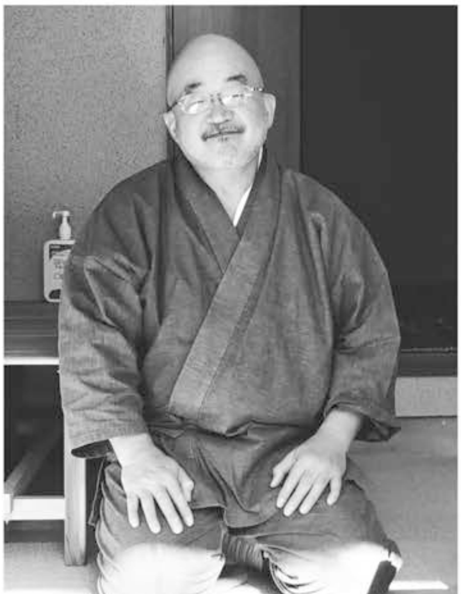
「お峰入り」の役は代々各家に受け継がれ、家ごとに役が決まっていたと聞きます。現在は地域住民の高齢化や人口減少で、役を務める人がいなくなり、町外に住む親類に頼んだり、「棒踊り」では山北高校の生徒に出演していただく事もありました。「お峰入り」がユネスコの世界文化遺産に登録されて注目が集まり、保存への気運が高まればと思っています。

私は今回令和5年10月の公演で6回目の参加となり、「太鼓持ち」の役が決まりました。演技の最中「笛・太鼓」の演奏は約40分間休みなく続き、その間立ち続けることになります。数年に一度とはいえ覚悟が必要です。体調を整え公演の日を迎えたいと思います。

お峰入りのうち道行（入場）の場面

終わりに、私が外からやってきて住み、仕事をしていると思われがちですが、この共和の地は母方の祖父の生家の在る土地なのです。改めて先祖からの流れを感じています。

お峰入りの写真は、山北町教育委員会の提供です。今年の10月8日日曜日には、久しぶりにお峰入りが開催されます。詳細は山北町のホームページをご覧ください。



陶芸家　山本わたる氏

武蔵野文水差し

お峰入りのうち満月の歌の場面

黄瀬戸花生

灰釉茶碗

県立厚木高校永遠なれ！

荻野戸陵会会長　伏見　清（高18回）

我々は戦後のベビーブームの昭和22・23年に生まれ（後に団塊の世代と言われた）、それだけに同級生も多く受験や就職などすべての面で激しい競争の中に身を置いた世代である。

時は戦後復興も終わり、高度経済成長期の真っただ中で順調に成長してやがて人生の第一関門となる高校受験となる。

当時地元では高校進学に際し男は厚木高校、女は厚木東高校という暗黙の慣例のようなものがあったと思う。また志望校選択の目安として、厚木高校は当時県下一斉に行われていたア・テストの得点が9科目合計で350点程度必要と言われていたが、私にとってはちょっと厳しい状況の中一念発起して猛勉強に励み、何とか基準点をクリアできた。続いて市内各中学や近隣中学の精鋭達と臨んだ入学試験も何とか勝ち取り、晴れて厚高生となることができた。

入学後先ず驚いたことは1年生には昼休みに応援の練習が課せられ、昼食もそこそこにコンクリート敷きの中庭に集合して怖い応援団の指導のもと校歌や応援の練習をさせられた。集合時間に遅れたクラスは連帯責任で理不尽にもその場に全員正座させられ先輩応援団員のつまらない説教を延々と聞かされた。

当時巨人軍の長嶋選手や王選手が大活躍していた時代、硬式野球へのあこがれもあって野球部に入った。野球部といっても部員は少なく、夏の県大会が終わり3年生が引退した後は部員10人前後で試合もままならない状況であった。そんなこともあってか在籍した3年間夏の大会はすべて1回戦で敗退し、スタンドで応援してくれた在校生とともに歌うはずだった勝利を称える校歌を歌えなかったことを今でも残念に思っている。しかし応援練習のおかげで統率の取れた応援は相手校を圧倒し、甲子園出場の強豪校と比べても遜色はなく全国レベルだったと思う。

そして在校中印象に残っている行事として、全校マラソンがある。学校周辺の周回コースで、未舗装の砂利道、天気が続けば砂ほこり、雨が降れば大きな水たまりができ相当タフな環境であった。何人かの仲間と不真面目な走りを先生に見つかり先生の通勤用バイクに伴走されながら走り直す羽目になった。その他、九州への修学旅行やちょっとした悪戯・やんちゃ等を通して一生の友を得ることもできた。学業の方は芳しいものではなかったものの卒業後60年近く経っても当時の仲間とはゴルフや飲み会等で集まり、往時の出来事や互いの武勇伝を肴に大いに盛り上がっている。

これから何回集まれるかわからないが高校時代の熱く濃い3年間は思い出の宝庫となっている。

神奈川県立厚木高校
永遠なれ！

我が青春の思い出

川井　義則（中41回）

この文章は、平成30年５月発行の『厚高相模原戸陵会創立三十周年記念誌』に掲載されました。この度、厚木高校創立１２０周年にあたり『厚高同窓会々報』に再掲いたします。筆者の川井義則先輩は令和４年10月22日に93歳で永眠されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

相模原戸陵会副会長　三沢　賢一（高21回）

私があこがれの県立厚木中学校へ入学したのは、昭和17年４月でした。伝統ある「白い風呂敷」を小脇に抱え、高下駄で闊歩した当時が懐かしいかぎりです。

相模原市西大沼の自宅から、相模大野駅へ畑道を徒歩で28分、電車で本厚木駅まで20分、駅から中学通りに出て戸室の丘に向かい、ようやく学校に辿り着きました。相模原の平地で育った私は、丘から俯瞰する厚木の市街地がすばらしく見え、相模川をへだてた海老名耕地から、更に東の丘陵までの、見事な景観に眼を見張りました。絵心のあった12歳年下の亡き弟武夫(高12回)も、厚木高校生になった頃、こんな感情がほとばしったのではなかろうか。中学通りの両側に建ち並ぶ、厚木市街の佇まいは、さすが格調高い昔からの町だと思いました。

入学時は日米開戦の翌年で、通学途上陸軍士官学校の教官が乗り合わせ、俗称「天保銭」と云う陸大卒を示す銀色の記章を胸につけ、厳めしい顔をしていました。沖縄で戦死した牛島中将は、士官学校長だったせいか、相武台の駅では電車が1輌増結され、駅長の案内で乗車し、分厚い紫色の座布団に座って新宿方面へ帰りました。白髪まじり、ちょびひげで柔和な顔立ちが印象に残っています。

下級生の頃の思い出は数多くありますが、剣道部で張り切ったこと、相模川の河原に駆り出され、グライダー部の手伝いをしたこと、富士の裾野にある板妻兵舎に宿泊したことなどです。又学業の合間に、農家へ手伝いに行きました。学徒動員は川崎市溝の口にあった「日本光学」の工場でした。そこで小型旋盤を使い部品などを作りました。

ある日、日本の飛行機とアメリカ海軍機・グラマンとの空中戦を、工場の片すみで見ましたが、その時敵機１機が日本軍によって撃墜されました。ただこの時悲しかったことは、隣の工場で働いていた小田原中学校の生徒が、機銃掃射の犠牲になりました。

「翠光寮」と云う私達の宿舎は、木造二階建ての会社の建物で、自由が丘駅近くにありました。空襲により焼夷弾が近くに落ち、こわごわ火事現場を廻り、夜おそく大岡山にあった東京工業大学まで歩き、当時有名だった飛行機の実験施設「風洞」が焼け落ちた、無惨な姿を目の当たりにしました。食糧難で苦しい動員生活が続き、その後配置転換があり、終戦を淵野辺の陸軍造兵廠広場の玉音放送で知りました。

戦後母校に復帰し、五年生で卒業しましたが、軍国調の教育を受けた私達の年代の者達は、皆精神的に大きな痛手をこうむり、元にもどる迄には大分時間がかかりました。

今ここに、入学時の永野校長先生の講話を思い出し、「剛健・眞剣・勤倹の三剣」、「智・仁・勇の三徳」を表す校章に誇りを持ち続け、今日に至りました。卒業後70年母校が益々発展し、優秀な人材が各分野で活躍している姿を見聞きするたびに、母校の偉大さと、伝統の重みを感ずる昨今です。

厚木高校のさらなる躍進を祈念致します。

厚高女子制服の誕生

青木　治美（高18回）
大河原洋子（高18回）

厚木高校創立１２０周年おめでとうございます。

昭和38年４月厚木高校の新入生は29人が女生徒、途中編入があり30人となりました。1学年上の女子は17人、その上の学年は一桁だったように記憶しています。一気に増えた女子にトイレの問題、更衣室の問題等、学校側は対応に迫られたようでした。

授業では体育の時間、女子のいる二つの学級を一緒に行う編成にして下さり、30人での授業が可能になりました。家庭科はありませんでした。週に何回かの体育の授業は、所属している学級の他にもう一つ女子クラスがあるような感じがして、卒業後の交流が多いこともこの一体感があったからでしょうか。（3年の時には進路別に女子も4学級に別れ女子全員での授業は2年まででした。）

この一体感は女子制服作成の時にも発揮されました。昭和38年3月合格発表時、合格通知と共に必要書類が入った合格セットが手渡された中に、「入学式までに制服を用意すること男子は詰め襟、女子は厚木東高に準ずるものとする」というのがありこの一項に「えーっ、私は厚高生になるのに何で東高に準じるの？」とすっきりしない気持ちになりました。こう思ったのは私たちだけではなく多くの友人から私も私もと聞かされました。

それでもなんでも高校生活は楽しく毎日が驚きと興奮、新たな発見の日々でした。

1年の終わりか2年の始め頃のある日、保健体育科の岩崎文夫先生に二人で呼ばれ、「女子の制服について意見をきかせてくれ。」と告げられました。先生方からの諮問委員といったところでした。

同学年の女子30人で制服委員会を結成し厚高生にふさわしい制服とは、どんなデザインにしたらいいのか、セーラー型かブレザー型かどちらにするか等検討しました。

どちらにもそれぞれの想いがありましたがセーラー型が多数となりました。両方の特徴を生かせたらと他県の高校の制服も参考にしました。

当時、厚木に「羽根沢屋」という店があり学校側からそこのデザイナーが紹介され、デザイン、生地など相談に乗っていただき夜遅くまで作業を進めました。教室の外は木枯らしが吹いていたのが記憶に残っています。見本を2点仕立ててもらい検討し現在のデザインを原案としました。

もうかれこれ60年も昔の話です。ほとんどぼんやりした記憶の中で思い違いの部分もあるかもしれません。

当時の小林房次郎校長先生が、「女子の制服を創れ、かっこいいのを創れ。」と命じ、生徒指導担当の小島菊代先生が「君たちの学年に依頼したのだよ。」ということ、また新入生を迎えた3年の春、女子の制服問題が生徒総会にかけられて、その後職員会議で何回も検討していただいたことなど、今は亡き小島先生から「あの時はご苦労だったな。」というお言葉と共にそれらのお話を初めて伺ったのは、平成29年も暮れようとしていた寒い冬の日のことでした。

誕生した厚高女子制服は、私たち高18回生が卒業したその春の新入生から着用して入学式を迎えました。現在では生徒数の約半数を占める女子が、あの制服姿で戸室の坂を登下校しています。

女子制服（現在）

【参考】『厚高新聞』75号（昭和41年3月11日発行）は「制服決定に喜びの顔」という大見出しのもと、「以前から問題になっていた女生徒の制服問題が職員会議で承認され、今年の新入生から着用されることになった。」と前書きを付けて、厚高女子の制服が出来上がったことを写真入りで報じている。

１２０周年にあたって

藤沢戸陵会前会長　泊瀬川　孚（高14回）

私が高校を卒業した年は昭和37年でした。厚木高校１２０年の歴史の中でちょうど中程になります。当時は学区制で、私の住んでいた藤沢市打戻は御所見地区です。前身は高座郡御所見村で昭和30年に藤沢市に合併しました。しかし、高校は厚木高校の学区になっていました。そこで、同級生が12名ほど厚木高校に進学しています。部活は、親の反対があったものの二つ上の兄の同級生の小島先輩（高12回）の勧誘で山岳部に入部しました。親がなぜ反対したかというと、当時複数の大学の山岳部において〝しごき事件〟が問題となっていたからです。幸い既に就職していた上の兄が〝山好き〟だったため親も了承してくれたのです。

通学は自転車でした。自宅から高校までほとんどが砂利道で、海老名町の一部と厚木市内が舗装されていただけでした。当時厚木周辺の河原では砂利採取が行われており、自転車の通路はダンプカーが多く走っていたため左側通行が原則ですが常に風上側を走っていました。そうしませんと土ぼこりをまともにかぶってしまうことになります。通常片道45分で学校につきましたが最後の戸室の坂で一汗かき、部室で汗を鎮めてから教室に入りました。雨の日は用田からバスで通いましたが、30分おきのバスに乗り遅れると厚木に向かうダンプカーに手をあげてヒッチハイク。たいがいの運転手は厚木市内まで乗せて行ってくれました。

昭和34年4月、山岳部が、新人歓迎会を渋沢駅から入った〝四十八瀬川〟の河原でテントを張り開いてくれたのを記憶しています。4月なのに大雪が降り朝日に照らされた雪がまぶしかったのを覚えています。5月には丹沢〝表尾根〟を踏破（ハイキングです）、6月には関東高校体育連盟主催の登山大会参加、この時初めて3千メートル級の鳳凰三山（２８４１m）に登り残雪を歩きました。テントを背負って2泊3日の山行でした。

夏休みには、1週間の北アルプス縦走に挑戦しました。写真は、槍ヶ岳を目指して西鎌尾根を行く仲間です。

鳳凰三山地蔵岳にて

槍ヶ岳を目指して西鎌尾根を行く

厚木高校同窓会のかたすみで
―コンジキノトリ―

八木　幹夫（高17回）

同窓会って参加したことあるかい
いや一度もないよ　ほら　昔のアルバムに
やせっぽちで　番外に今にも消え入りそうに
立っていた男　あれが俺さ
写真には写らないけれど
暗い沈鬱な野心を秘めて
いつか世の中に復讐してやるんだと考えているような男のこころ
（いつの時代にも危険な男や女はいるものさ）
太ももぱんぱんに張った
陸上部の同級生
グランドで白球を追い
好球を打ち返す野球部の男
午前の授業　体躯系はほとんど爆睡
弁当は3時限目には食べ終わり
4時限目が終わると廊下に飛び出し
簡易食堂まで突っ走る
遅れた者は
その日のうどんが食べられない
昼休み　中庭での第一声
応援団団長
「われわれわァ　かの阿夫利嶺の山々から霊気をもらいィ
　今これから出陣する野球部　陸上部の諸君の勝利を祈りィ
　ここに校歌とエールをおくるぅ。それーっ」
太鼓がひびき　旗が鳴る
うどんを食べ損ねた者も大声を張り上げる
てふてふが飛んでる誰もゐない校庭
　マスクして　一望山河に　味方なし*1
教室では
中村先生があらぬ方向を見て現代国語や古典を教えてくださった
名物教師がたくさんいたな
漢文のカッチャン先生　　数学の大矢先生
いぶし銀の難波先生　英語の関谷先生　蝶ネクタイの筧先生
自由民権運動研究の大畑先生
飢えていた　いつも何かに渇いていた
銀杏並木のきらきら
戸陵の岡の夕日きらきら
東高校の女生徒の
フォークダンスきらきら
コンジキノ　チイサキトリノカタチシテ　イチョウチルナリ　ユウヒノオカニ*2

八木幹夫氏

注＊1～2
1　中村菊一先生の俳句。俳句短歌同好会「あふりね」顧問。俳人八幡城太郎「青芝」の門下。
2　与謝野晶子の短歌
　金色のちひさき鳥のかたちして
　銀杏ちるなり夕日の岡に

略歴
１９４７年生れ。相模原市立旭中学校、厚木高校、明治学院大学英文科卒。詩集「野菜畑のソクラテス」で現代詩花椿賞・芸術選奨文部大臣新人賞。「八木幹夫詩集１７６」（思潮社）評論「余白の時間―辻征夫さんの思い出」「渡し場にしゃがむ女―詩人西脇順三郎の魅力」等。現在日本現代詩人会会長、産経新聞「朝の詩」選者を務める。

風はいつも海から

リクター香子（高18回）

今年5月、突然の熱波で30度を超える日々に水仙は咲き急ぎ、アイリスはそろって蕾を膨らませ、バラの芽の紅もみるみる緑の繁りとなったオレゴンの山よりお便りいたします。

昔、結婚してすぐマレー半島に住みました。半世紀も前のこと、日本の食品も本もめったに手に入らず、電話も1通話3千円もして、今から思えばまるで島流しにあったような。でも東南アジアの豊かな文化にどっぷり浸かって、人生の宝物のような7年間を過ごした後、１９７９年の日本に戻り、自分の無知ぶりにびっくりしました。

そのせいかどうか?その5年後には離婚してシングルマザーとなりました。夢遊病者のようにふらふらと故郷の座間に出戻った私を高校卒業以来長い間会うこともなかった友達が支えてくれました。皆仲が良くて頻繁にクラス会をしている、私とは違うクラスだった人たちが「おいで」と、ほかにも数人いる「名誉クラス会員」の一人にしてくれました。

ふるさと。こうこうじだい。せいしゅん。ともだち。なんていい言葉でしょう。

厚高入学は１９６３年、東京オリンピック前年でした。古い木造校舎。窓にそよぐヒマラヤ杉。石畳の中庭。そこで、昼休みの応援練習。大急ぎでお弁当を食べて全員集合するのですが、のろまの私は遅刻して正座の罰。若かったのですね、素足で平気で石の上に座れました。なんの暖房もない真冬の教室に白い綿ソックスでサバイバルしてましたし。

女子は一学年約４００人の一割にも満たない30人ほど。男子校としての長い歴史のある厚高では女子は余計者…みたいな感じを受けることも。でもそれはただ私がしっかりしていなかっただけなのかもしれません。明確な将来への目標を持って厚高に来て、それを実現した女子たちもいるのですから。大畑哲先生の授業で日本国憲法について学び、考え、思うことを書くよう言われた日、私はやっと成長し始めた、と思っています。

再婚した夫の故郷に移り住んで早や20余年。世の中の変化はめざましく、マレー半島での月日とは大違いの環境です。海を越えて瞬時に繋がることのできる同級生皆そろって後期高齢組になりました。どんどん、否応なく、自分の体が変化していくのがわかります。この戸惑いを第2の思春期と呼んで私は楽しんでいます。早や乾き始めたオレゴンの片田舎の景色は、とうに第2の故郷になりました。

母校の思い出

杉山久美子（高29回）

高校時代の思い出は、多くの人がそうであるように、私の場合も部活動と深く結びついています。

私は高校時代、弁論部でした。弁論というと、堅苦しい感じがあると思うのですが、いろいろな考えの人のいる、一言では言い表せない不思議な開かれた部活動でした。

夏休みになると、通い合宿があって大学生の先輩たちが指導に来てくれます。練習場所の地学教室に吹きわたる風がとても心地よかったこと。そして、先輩たちからの心にくいばかりの励ましのお言葉。練習の後は、厚木の花火大会に繰り出したこともあります。

そして、毎日の発声練習は、ひたすら大声を出しまくります。サッカーコートの、向こう側とこっち側で呼び交わすように大声を出したり、走っている陸上部を見ながら、グランドで声を出したり。さらに、教室での発声練習は、鴨長明の『方丈記』の一節に、抑揚をつけて語るというものでした。

弁論部では多角的な視点を文章に取り入れることを学びました。とても貴重な経験でした。弁論部の同級生や先輩たちとLINEで交流しているのですが、高校時代を思い出すと同時に、以前と変わらぬ先輩たちの知的好奇心や探求心にいつも刺激をいただいています。

そして、高校時代と言えば、授業のことも、もちろん思い出深いです。

毎週、数学の宿題プリントがたくさん出て、鍛えていただいていたこと。

古文の授業で学んだ『平家物語』の場面が好きで、教壇を船に見立ててみたり、『伊勢物語』の和歌にメロディーをつけて歌ってみたりしたこと。

小説のことや作家のことを熱く語ってくださる現代文の先生の口調を真似して反芻していたこと。

先生方から大きな愛をいただいて、私たちは学んでいたのだとしみじみ思います。高校時代は「どうしてこんなすごい人がいるんだ」と、学校生活のいろいろな場面で思っていました。そう思わせてくれる人たちに出会った時期でした。

厚木高校は、父も息子たちもお世話になった大切な母校です。亡き父は旧制厚木中学39回生。戦争中は学徒動員で、鶴見の東芝の工場で働いていました。父たち39回生は、卒業50周年の年に記念文集を出し、翌年にはその記念文集をきっかけにして、厚木高校社会部の生徒たちに招かれて、座談会に出席したりしています。社会部の部員たちがまとめた冊子『社会研究』～戦時中の学校生活・旧制厚木中学校の場合～も、父は大切に保存していました。同級生と「三九会（さんきゅうかい）」という名で定期的に集まって旧交を温めていた父。秋になると、「厚高の銀杏はどのくらい色づいたかな」、と懐かしんでいました。

私は、2年ほど前から、あることをきっかけに短歌を詠むようになり、投稿生活をゆるゆると楽しんでいます。最近は、入選すると選者が歌を詠みあげ、歌へのコメントをしてくださるラジオ番組がとても好きで、投稿しています。

この文章を書きながら、高校時代、梅雨時に校舎の窓から泰山木の白い大きな花を見るのが好きだったことを思い出しました。泰山木の花を眺めていると、憂鬱がはれるような気がしていました。

泰山木
　子らの憂ひを受けとめて
　　目見開くがごと
　　　白く咲きけり

弁論部の仲間たちと

社会研究

32 戦時中の学校生活
―旧制厚木中学校の場合―
厚木高校社会部

社会部機関紙の社会研究1996年

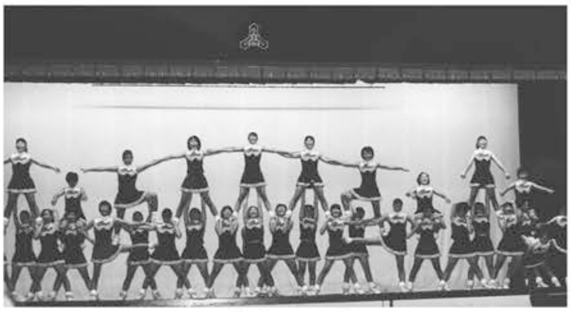
ダンスドリル部の思い出

若杉嘉奈子（高55回）

私の高校時代は常にダンスと共にありました。

小さい頃からずっとダンスをやってみたかったのですが、当時習える場所がなかなかなく、中学3年生の時に厚木高校の文化祭で見たダンスドリル部の演技に感動し、「私もあんな風に踊ってみたい！」と思うようになりました。入学後、ダンス経験のない私がダンスドリル部でやっていけるか迷っていると、「一緒に入ろう！かーこがやらなきゃ私も入らない！」と隣の席の子の一言で決心することができました。後に彼女は私の代の部長になり、私の前任のコーチになるのですが、尊敬して止まない彼女との出会いがなければ今の私はいなかったかもしれないと、その時の出会いに今でも感謝しています。

ダンスドリル部に入ってからはとにかく練習についていくのに必死で、体が特に硬かった私は少しでもみんなに追いつこうと毎日家でもストレッチをしました。夏の野球応援では1年生の中から選ばれた子が踊ることができたのですが、結果は選ばれず、悔しい気持ちもありましたが、やっぱりまだまだだと納得した気がします。その後は上手な先輩を観察して、どのように体を使っているのか、些細な仕草も上手になれるような気がして真似をしていました。冬には1年生をAチームとBチームに分けるオーディションがあり、Aチームに選抜された時は努力が実ったようでとても嬉しく思いました。



文化祭ステージ

当時、文化祭や1年生の大会の振付は自分たちで考えていたのですが、少しの時間でもチームで集まって曲や振りを考え、ひたすら練習をしていました。チーム練習で上手くいかないことがあれば先輩がフォローしてくれたり、時には厳しく指導してくれたりしました。ダンスが上手で面倒見が良い先輩は私たちにとって憧れの存在でした。

ある日、体育館前で先輩たちが号泣している姿に衝撃を受けたのを覚えています。私たちが出場する予定の大会が突然なくなってしまい、先輩は引退前最後の大会に出られなくなってしまったのでした。大会経験がほぼなかった私も大変なことが起きたのだと感じま

（次ページ下段に続く）

NEOFLUX SCM チャレンジするマグネットメーカー
株式会社 相模化学金属
代表取締役 福田重男（高13回） 顧問 落合重治（高13回）
〒252-0132 神奈川県相模原市緑区橋本台3丁目12番18号
TEL 042-773-2626(代) FAX 042-772-0099

再生可能エネルギー事業により地域社会に貢献する
MM マグメディカ株式会社
代表取締役 福田重男（高13回） 顧問 落合重治（高13回）
〒252-0132 神奈川県相模原市緑区橋本台3丁目12番18号
TEL 042-773-2626(代) FAX 042-772-0099

生徒会を変える

勝又美智雄（高18回）

生徒会長当時

18回生は1947（昭和22）年4月から48年3月までに生まれた。その数、実に270万人。終戦後、外地に居た兵士300万人以上が引き揚げて来てから生まれた訳で、戦後ベビーブームのピークであり、1年間の出生数としては日本史上最高を記録している。小・中学校時代から1クラス50名以上のすし詰め学級を経ていた。

厚高入学当時、本厚木駅は木造平屋建てで、駅を出ると戸室ヶ丘までずっと田んぼが続いていた。そのあぜ道を下駄履きで通学するのが公認されており、仲間たちは皆、春から秋にかけて下駄通学だった。

校舎は木造2階建てで老朽化しており、裏の雑木林から昼間よくヘビが出てきて校庭を通っていた。私たちは1年生420人で8クラス、うち女子は僅か20人だった。翌年以降女子の数がどんどん増えて、数年後校舎が4階鉄筋コンクリート建てとなり、女子の比率も3割ほどに増えて、実に隔世の感があった。

厚高は当時から神奈川三中の伝統を引き、「文武両道」「質実剛健」をモットーに、県央でトップの進学校であり、クラブ活動でも新聞部や弁論部などが全国大会で入賞するなど、好成績を収めていた。

新入生が最初に驚いたのは、昼休み、中庭に全員集合させられ、応援団の指揮で校歌、応援歌を一斉に歌わされたこと。応援団員は黒い学帽に卵を塗り込んで角張った形にし、それをかぶることがバンカラの象徴だと粋がっていた。

1年生の秋か2年生の春か忘れたが、県下一斉の学力試験があり成績優秀者50位までに厚高から5人が入り、湘南高校を抜いたことで先生方が大喜びしたことを思い出す。そう、我が同級生たちは全県一優秀だったのです。2年生ではESS（英会話同好会）の会長となって、新入生の女子数人を入れて悦に入っていた。

2年の11月から3年の11月まで仲間に推されて生徒会長を務めた。当時の生徒会は、どこの高校も60年安保の余燼をかぶって社会、共産両党の青年組織の末端で活動するような学生が中心で、言わば生徒会活動を政治活動の一部と捉える雰囲気が色濃くあった。それを私たちはおかしいと思い、私が会長、副会長に曽根康教（慶応大名誉教授）、会計に中村郁（北海道大名誉教授）、クラブ活動担当に面倒見の良い多田和夫を配置し、厚高生徒会で初となる女子役員として（現）大河原洋子さんに入ってもらった。

私たちが最初に手掛けたのは、生徒たちの最大の関心事は何かを考え、厚高で学ぶ教科のそれぞれにどういう目的・意義があり、その教科を学ぶことで生徒が何を考え、身に付けるべきなのかを理解するようなガイドブックを作ることだった。これには校長、教頭以下全教員の協力を取り付け、それぞれから原稿を集め、ガリ版で印刷し全生徒に配った。教師のなかには、受験指導と勘違いして「傾向と対策」本のようなことを書く先生もいたが、こちらの趣旨を説明して、改めて内容を全面的に書き直してもらったりもした。このガイドブックは特に1、2年生には好評で、「難関の厚高に入ってどんな学生生活を送っていいか戸惑っている時に、とてもいい指針になった」という声を当時幾つも聞かせてもらい、やった甲斐があったと思った。とりわけ、青春時代に是非読んで欲しい本を各先生から数冊ずつ挙げてもらったのが良かった、と今でも思っている。

これは県内の他の高校の生徒会活動にも、全く新しい試みとして関心を呼んだ。

卒業後半世紀年以上経つが、多田たちの世話で今でも時々同期会があり、それには私もできるだけ参加して、昔話に花を咲かせている（注：文中敬称略）。

<略歴>
厚木高校、東京外国語大学英米語科卒
1972年～2004年　日本経済新聞社で、社会部記者、ロサンゼルス支局長、編集委員などを歴任
1981年　米スタンフォード大学ジャーナリズム研究員、
1993年～2002年　東京外国語大学非常勤講師
2004年～2016年　秋田の公立大学法人・国際教養大学の開学と同時に同大の教授兼図書館長
現在は国際教養大学名誉教授

<主な著書>
「最強の英語学習法　グローバル人材を育てる実践的英語教育」（IBCパブリッシング）
「権力の驕りに抗して」日経BPマーケティング（日本経済新聞出版）
「情報スーパーハイウエーの衝撃—ビジネス・社会はこう変わる」（日本経済新聞出版）

グローバル人材育成について、各地で講演

（前ページより続き）

した。先輩は急遽別の大会に出ることになりましたが、1年生の私たちは準備が間に合わず、結局出場することはできませんでした。

そして先輩が引退し新入生が入ってくると、これからは私たちが部を引っ張っていかなくては、という不安と期待でいっぱいでした。練習中は2年生同士で意見がぶつかることもありましたが、全員が部活に対して真剣に向き合っていたからこその衝突で、一つ一つイベントや大会など仲間と目標を成し遂げていくことは本当に充実した日々でした。

それまでダンスドリル部は伝統のチアユニフォームを着て大会に出ていたのですが、最後の大会は自分たちでデザインしたパンツスタイルの衣装で出場しました。表彰式では、1位に私達のチーム名が呼ばれた瞬間、歓喜の涙を流してチームメイトと抱き合い喜びを分かち合いました。今までの日々が思い起こされて、このメンバーとやり遂げられて良かった、と思ったあの時の気持ちは一生忘れられません。体育祭に文化祭、野球応援、そして大会、他にも沢山の思い出が今でも色鮮やかに私の中に残っています。

私にとってダンスドリル部は、生涯大好きなダンスと友人に出会えた大切な場所であり、仲間と力を合わせて作り上げること、先生やコーチ、友人、家族など沢山の人に支えられていることを学ばせてくれた唯一無二の存在です。現在はコーチとして部に関わっていますが、後輩たちがどんな困難にも負けずに乗り越えられると信じて、思い切り踊れるよう鼓舞激励していきたいと思っています。

引退前最後の大会

現役ダンスドリル部と

(有) 神山クリーニング店
取締役会長　神山 宏（高17回）
本店　〒252-0027 座間市座間1-3185-2
TEL：046-251-0201
FAX：046-255-2525
携帯：090-2451-9778
E-mail:kamiyama@tanzawa.or.jp
支店　メガドンキ座間支店・妻田店・エスパティオ下川入店

創業明治十三年
大矢製畳株式会社
代表取締役　大矢　正次（高14回）
〒252-0027
神奈川県座間市座間1-4188
（座間小学校西側）
TEL　046-251-0032
FAX　046-251-6848

総合電気設備工事
眞崎電工株式会社
代表取締役　眞崎　和秋（高22回）
〒252-0027
神奈川県座間市座間1-3275
TEL　046-251-2054
FAX　046-255-5488
MAIL　mdk@mbe.nifty.com

学校情報

学校主催の記念式典開催

華やかなダンスで120周年を祝うダンスドリル部

6月29日、厚木市文化会館で厚木高校創立120周年の記念式典がおこなわれた。

第一部では、生徒会長や校長、来賓の方々が120周年を迎える厚木高校に祝意を示した。

第二部では、「高校生投手の制球と投球データの関係」についてや「金属腐食のハロゲン化合物イオンによる影響」、「世界津波の日2022高校生サミット」の成果を発表した。

第三部では、部活動による発表がおこなわれ、軽音楽部のバンド、凪がオリジナルソングを披露。ダンスドリル部は生徒参加型の華やかなダンスで120周年を祝った。吹奏楽部はOBでサックス奏者の平野公崇さん（高40回）と共演。氏の作曲した「戸陵の桜」と住田莞樹さん（3C）作曲の「旭日射す丘」を演奏し、迫力のある音色をホールに響かせた。また、生徒会総務によるクイズ大会も開催された。勝ち残った生徒には、校章の焼印入りのお菓子が賞品として贈呈され、大きな盛り上がりを見せた。

（『厚高新聞』第273号より）

120年目の相州健児たちへ

校長　大沢　利郎

明治35（1902）年に開校しました本校は、明治・大正・昭和・平成・令和と5つの時代にわたり、明日の世界を拓く人材の育成に力を注いでまいりました。120年の歴史を振り返りますと、先人諸氏が時代の動きに応じ、時に大きな変化にも耐えながら、脈々とその伝統を繋いできたことが分かります。

同窓会長の熊坂様に、相州健児の本質は「いざ鎌倉」の精神にあるとお聞きしましたが、このコロナ禍にあって本校生徒が見せてくれたものは、まさにその精神だったように思います。

日ごろから学習や探究、部活動、行事に懸命に取り組み、さらにコロナ禍という非常時にこそ、「できない」のではなく、「どうすれば」「どこまでなら」できるかと追い求め、協働・共創につとめ、その成果を自利ではなく、共利、他利に活かそうとする姿勢です。これは「質実剛健」そのものであり、「いざ鎌倉」の精神に他なりません。120年目の厚高生にも「相州健児」の意識が脈々と受け継がれているのです。

そして、その意識こそVUCA時代と言われるこれからの時代にますます必要とされる資質・能力でもあります。よって、私は改めてこう呼びかけたい。

厚高生諸君！相州健児たれ！未来は君たちの手の中にこそある。

全校で〝厚高生のあるべき姿〟追う

副校長　小林恵里子

4月に副校長として着任しました。3月までは横浜緑ケ丘高校、その前は希望ケ丘高校と、これまでは横浜地区の勤務が多く、初めての県央地区を楽しみにして参りました。

着任して感じたことは、職員は皆、ある同じ思いで生徒と接しているということです。その思いというのは、「厚高生としてどうあるべきか」というものです。厚高生としてどういう学力を身に付けるべきか、どう振る舞うべきか。厚高生としてはこうあってほしい、という思いです。卒業生である職員も多いですが、それとは関係なく、みな同じ思いで生徒と接し、指導をしています。これにより、生徒は自ずと厚高生としてのプライドを持って自らを高めていっています。まさにこれが伝統校ならではの良さであると思いました。これまでもそれぞれに歴史のある学校に勤務しましたが、このように歴史が今の日常に生きて働いている、ということを実感したのは初めてです。

時とともに価値観も変わり、先の見通せない時代になりましたが、変わるものと変わらないものを見極めながら、しっかりと厚高生を育てていきたいと思います。同窓会の皆様には、これからも変わらないご支援をお願いいたします。

第55回 茅賞

数学と弓道を追い求める

左右田 朋弥 さん

学業・部活動・人物などすべてにおいて優れている卒業生一名に贈られる茅賞は、今年度左右田朋弥さん（高75回）が受賞した。

元々は剣道少年。研究者気質で「道」を突き詰めることに楽しさを見出していた。「部活にも勉強にも広く取り組むぞ」と受験を決めた厚木高校。志を貫き、部長として強豪弓道部を引っ張ってきた。責任感や気配りの細やかさには顧問を始め、彼を知る皆がこぞって太鼓判を押している。

「もちろん理科も好きだけど、仮説・検証とはまた違うアプローチが自分に合っていた」。証明できること・正しいことを積み上げていく数学の面白さに惹かれ、在学中は仲間たちと数学オリンピックにもチャレンジした。大学に進学したら思う存分弓道と数学に打ち込みたいと考えている。

（京都大学理学部在学）

神奈川県知事登録(10)第14577号
株式会社　松本企画
代表取締役　松本 茂（高20回）
〒259-1114
神奈川県伊勢原市高森2-17-6
TEL 0463-95-8668
FAX 0463-95-8670

㊜ 有限会社
秋山安太郎石材
代表取締役　秋山　良次（高27回）
事務所　神奈川県伊勢原市日向576番地
電　話　（0463）95-2490
FAX　（0463）91-4144
工　場　（0463）94-1222

＝おかげさまで100年＝
三橋建設産業（株）
代表取締役　三橋　要（高21回）
一級建築士　一級建築施工管理技士
一級土木施工管理技士
本　社／神奈川県伊勢原市田中975
事業部／神奈川県伊勢原市板戸806
TEL 0463-95-1133
FAX 0463-94-2727

令和4～5年 部活動ダイジェスト

【ダンスドリル部】

11月の全国大会で1位

昨年の第22回全日本チアダンス選手権大会関東予選大会Jazz部門高校生編成で1位を獲得し全国大会へ。11月27日に行われた同全国大会で1位を受賞した。

3月28日に開催されたUSA School&College Nationals 2023高校編成Jazz部門で4位を獲得した。

部長の西澤さんは「昨年からはチアダンス部門ではなくジャズ部門に参加することになり、新しい挑戦で優勝できて良かった」と話す。

【軽音楽部】

「凪」が120周年記念式典テーマソング「青と光」制作

本年6月29日に行われた学校主催の創立120周年記念式典のテーマソング「青と光」を作詩作曲した3年生バンド「凪」をはじめ、軽音部の活躍が目覚しい。

「凪」は昨年8月28日に開催された第9回全国高校軽音コンテストでグランプリを受賞。この大会では3年生バンドのSHIMAUMAが奨励賞を受賞している。

「凪」を含む軽音部の2年生9名は、10月9日の「スニーカーエイジ第8回関東甲信越地区グランプリ大会」でも準グランプリを受賞。

「凪」は10月30日に開催された高校生ライブMUSIC DAYS2022でグランプリ受賞。12月11日の第20回県高校軽音楽コンクール決勝では2年生バンド「異常へモグロビン」がグランプリを、また12月25日のWe are SNEAKER AGES第2回全国軽音楽大会では2年生の特別編成チームが準グランプリを受賞した。

「凪」はこれで全国三冠を達成し、その成績から創立120周年のテーマソングを任されることになったという。

【吹奏楽部】

東関東、全国大会で金賞

12月25日に開催された神奈川県アンサンブルコンテストにフルート三重奏で金賞を獲得し全国大会へ。3月25日開催された第25回日本ジュニア管打楽器コンクールアンサンブル部門木管の部高校生コースにおいても、フルート三重奏で金賞を獲得した。

吹奏楽部は11月5日に開催された第11回日本学校合奏コンクール全国大会グランドコンテストにて銀賞を獲得。また、10月29日の県央アンサンブルコンテストでは、クラリネット四重奏で金賞を獲得した。

【弓道部】

昨年の第四十一回関東高校弓道個人選手権選抜県予選で8位を受賞し、関東大会に出場。10月8・9日の県新人大会は男女ともに団体優勝し、3月末の東日本大会への出場を決めた。個人でも男子が優勝と3位、女子が2位・4位・6位。10月30日の北相地区大会個人の部で4位、男子団体で3人が2位を獲得した。

今年6月18日のインターハイ予選会では、女子団体が準優勝、男子団体が3位を獲得した。

【男子バレーボール部】

6月11日・18日の第77回関東大会県予選でベスト8に入り、6月24日の順位決定選で5位を獲得、25年ぶりにベスト8以上を獲得する快挙となった。

【演劇部】

10月の第59回北相地区高校演劇連盟秋季発表会で優秀賞を獲得。

『厚高新聞』第271号（22年10月）～第273号（23年7月）

過去5年間の主要大学合格者数

［現役・既卒の合計数　（　）は既卒者］　令和5年4月1日現在

	学校名	令和5年春	令和4年春	令和3年春	令和2年春	平成31年春
国立	北海道	4 (1)	5 (1)	3 (1)	6 (0)	2 (0)
	京都	2 (1)	1 (1)	4 (1)	3 (3)	4 (1)
	千葉	1 (0)	4 (2)	6 (1)	5 (1)	5 (2)
	筑波	4 (0)	9 (0)	5 (0)	5 (1)	4 (0)
	電気通信	4 (1)	1 (1)	10 (0)	4 (3)	5 (1)
	東京	6 (1)	2 (1)	4 (2)	2 (1)	2 (0)
	東京外国語	4 (1)	3 (0)		2 (0)	2 (0)
	東京学芸	2 (0)	2 (0)	4 (1)	2 (0)	5 (1)
	東京工業	11 (2)	13 (2)	7 (2)	9 (1)	6 (0)
	東京農工	7 (0)	4 (0)	3 (1)	5 (0)	3 (2)
	東北	2 (1)	5 (2)	5 (1)	6 (2)	2 (0)
	一橋	2 (0)	5 (0)	6 (2)	2 (1)	3 (0)
	横浜国立	30 (4)	30 (1)	29 (2)	23 (8)	29 (4)
	信州	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (1)	5 (1)
	大阪	0 (0)	4 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (1)
	国立計	100 (17)	117 (18)	101 (17)	99 (30)	98 (21)
公立	首都大学東京	34 (0)	26 (3)	25 (2)	18 (2)	27 (2)
	横浜市立	6 (0)	2 (0)	4 (0)	4 (0)	7 (0)
	公立計	44 (0)	32 (4)	32 (2)	34 (2)	36 (2)
私立	青山学院	91 (1)	96 (4)	99 (14)	79 (9)	75 (8)
	神奈川	15 (1)	16 (0)	20 (2)	19 (4)	17 (6)
	北里	33 (4)	24 (2)	18 (2)	28 (2)	30 (1)
	慶応義塾	30 (4)	51 (5)	49 (14)	35 (8)	42 (10)
	工学院	11 (0)	35 (10)	23 (3)	19 (9)	11 (2)
	駒澤	21 (0)	15 (1)	25 (4)	23 (2)	21 (2)
	芝浦工業	23 (6)	31 (7)	14 (3)	23 (6)	19 (1)
	上智	26 (1)	51 (8)	39 (6)	27 (4)	26 (3)
	専修	36 (3)	21 (1)	55 (0)	38 (3)	26 (3)
	中央	96 (5)	127 (13)	103 (16)	76 (9)	94 (19)
	東海	30 (8)	20 (5)	51 (6)	23 (5)	19 (9)
	東京女子	7 (0)	12 (0)	8 (0)	10 (4)	5 (0)
	東京農業	25 (4)	12 (0)	7 (0)	29 (3)	8 (0)
	東京理科	46 (12)	63 (9)	54 (25)	44 (5)	55 (16)
	東洋	21 (0)	20 (4)	32 (4)	30 (6)	17 (1)
	日本	43 (7)	52 (5)	58 (7)	75 (14)	46 (9)
	日本女子	15 (0)	8 (1)	11 (0)	16 (5)	16 (1)
	法政	132 (8)	90 (5)	92 (14)	84 (13)	79 (18)
	東京都市	44 (7)	31 (3)	29 (5)	34 (7)	32 (5)
	明治	198 (21)	212 (13)	191 (30)	121 (22)	145 (26)
	明治学院	33 (2)	24 (1)	23 (6)	23 (1)	20 (3)
	立教	71 (5)	47 (10)	50 (4)	43 (5)	41 (4)
	早稲田	102 (7)	83 (7)	116 (11)	56 (11)	74 (16)
	私立計	1368 (124)	1339 (148)	1428 (208)	1205 (204)	1134 (193)

最近5年間の進学状況

卒業生進路	令和5年 高75回	令和4年 高74回	令和3年 高73回	令和2年 高72回	平成31年 高71回
国公立大学	110	117	97	91	102
私立大学	202	183	216	188	189
短期大学	0	0	0	1	2
専修学校・大学校等	3	2	4	4	0
進学者数計	315	302	317	284	293
入学率	90%	87%	89%	81%	82%
卒業生総数	351	350	355	352	357

有限会社林写真商会　取締役 足立原 正久（高17回）

≈お酒のご注文は≈
（高29回）
小沼酒店
ONUMA LIQUOR STORE
TEL 0463-94-3438
FAX 0463-92-3902
〒259-1132 神奈川県伊勢原市桜台1-12-14

神奈川県知事登録（10）12573号
有限会社 一伸工業不動産部
代表取締役 村井 良行（高21回）
事務所 〒243-0213
神奈川県厚木市飯山3061番地
電話 046-250-0071
FAX 046-247-1688
携帯 090-3136-3358
Mail info@issin-kogyo.com

支部会便り

厚木連合戸陵会①

クラブハウスに響き渡る校歌・応援歌

～第８回チャリティゴルフコンペ開催～

厚木連合戸陵会ゴルフ委員長　中山　和男（高26回）

第８回チャリティゴルフコンペ（厚木高等学校同窓会主催、厚木連合戸陵会主管）が令和４年10月17日、本厚木カンツリークラブ貸し切りで開催されました。

新型コロナウイルスの感染拡大以来、様々な同窓会行事が中止や延期になっている中、このゴルフコンペだけは休むことなく毎年開催を続けてきました。屋外とはいえ感染防止を最優先とし、昨年に引き続き「表彰式・パーティーなし」、「ハーフコンペ」というウィズコロナのスタイルで行い、１１９人という大勢のご参加を得て、無事に終了しました。

プレー終了後、成績表と賞品を受け取った参加者の皆さんを待ち受けていたのは、応援団とブラスバンド部ＯＢのメンバー。クラブハウスのロビーで披露された校歌・応援歌を通じて、母校に思いを馳せ、誇りを感じていただけたのではないでしょうか。

賞品はキャディーバッグ、新米、日本酒、レンブラントホテル厚木特製のおせち料理（日本料理と中華料理計５個など）、熊坂隆光同窓会長のほか、９つの戸陵会、個人・企業等からいただいた協賛品がずらり！　ご協賛いただいた皆さま、ありがとうございました。

なお、参加者の皆さまからお預かりした11万９千円は、母校教育振興のために寄付させていただきました。

今年度は創立１２０周年記念コンペとして10月23日（月）に開催する予定です。各地区戸陵会経由のほか、個人でも申し込みできますので、ＨＰをご確認ください。

ロビーで校歌、応援歌の演奏が行われた

成績表（競技方法＝新ペリア）

順位	氏　名	GROSS	Hdcp	NET
優勝	田口芳雄（高21）	42	7.2	34.8
２位	大貫　亨（高17）	40	4.8	35.2
３位	土屋忠之（高22）	40	4.8	35.2
４位	高橋孝雄（高17）	39	3.6	35.4
５位	林　芳朗（高11）	43	7.2	35.8

厚木連合戸陵会②

３年ぶりに対面で総会開く
新会長に石射正英氏を選出

コロナ禍で昨年まで書面での議案採決を行って来たが、久しぶりに本年６月25日（日）14時半より厚木アーバンホテル・レインボーにて対面での通常総会を開催した。

森久保純生会長（高16回）のあいさつ、熊坂隆光同窓会長（高19回）、後藤祐一衆議院議員（高39回）らの祝辞に続いて小渕正志副会長（高18回）が議長となり議案審議に入った。

第１号議案〈令和４年度活動報告〉では、同窓会行事や支部総会等の約半数が書面決議や中止になる中で、実施された第17回青春かながわ校歌祭や連合戸陵会主管の第８回チャリティゴルフコンペの報告がなされた。

第３号議案〈令和５年度活動計画〉では、そのほとんどがコロナ禍前の通常の状況に戻って来た。特に同窓会主催の創立１２０周年記念式典、祝賀会（９月16日）の詳細に多くの説明がなされた。

森久保純生前会長（高16回）

森口賢二氏（高44回）の校歌独唱

第５号議案の役員改選においては、新会長に南毛利戸陵会の石射正英氏（高24回）のほか、８名の副会長、新幹事長に石射嘉一氏（高22回）、大沢弘事務局長（高25回）などの選任、再任を決めた。

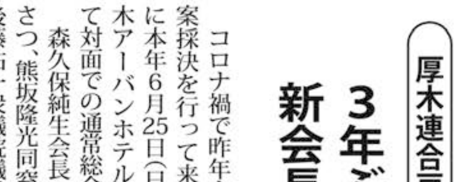
総会終了後、同じ会場で懇親会が開かれ、新役員の紹介とあいさつが行われた。最後にオペラ歌手の森口賢二氏（高44回）による校歌独唱で終了となった。

広報委員　池田　清（高19回）

久しぶりに顔を合わせた総会
（6月25日、厚木アーバンホテル・レインボー）

つるくぼ
耳鼻咽喉科
日本医科大学講師・つるくぼ耳鼻咽喉科院長
医学博士　鶴窪　一行（高26回）
〒243-0018 神奈川県厚木市中町3-3-22
TEL.046-221-4187 FAX.046-225-4133

株式会社 肉の田口
厚木市水引1-15-12　046-221-0822
年中無休　営業時間AM10:00～PM7:00
炭火焼 ホルモン カルビ焼 焼肉の田口
飯山店　厚木市飯山1093-4　Tel 046-242-1529
恩名店　厚木市恩名2-6-5　Tel 046-244-5629
下今泉店　海老名市下今泉3-1-3　Tel 046-206-4970
代表取締役社長　田口 幸一（高29回）



イトウスポーツ
代表取締役　伊藤修治（高17回）
〒243-0018 神奈川県厚木市中町2-2-22 2F
TEL 046(223)3458・(224)9397

小鮎戸陵会

公民館まつりを通して得たもの

小鮎公民館地区館長　本杉　長生（高19回）

私は昨年の4月から小鮎公民館の地区館長を仰せつかって、現在ちょうど一年を過ぎようとしております。この間多くの人と出会い、多くの人に助けられ、多くの人と一緒に活動することが出来ました。

初めは公民館が関わっている組織の多さに驚き、戸惑うばかりでした。これらの組織は地域の方たちのボランティア精神、奉仕の精神に裏打ちされて成り立っていることを知り、敬意と称賛の念にうたれ、うかうかしていられないぞと自分自身を叱咤激励する思いでした。

3月4日(土)、5日(日)には公民館事業の一年間の集大成ともいうべき公民館まつりが実施されました。コロナの関係で4年ぶりの開催でした。

私はもちろん、公民館職員に一人も経験者のいない中、地域の人たちが頼りでした。計画段階での部門別会議も前回実施の記憶を頼りにスムーズにすすめられ、「今年はこうした方が良いなど」の意見も飛びかいました。前日準備も当日の運営も見事にこなし、地域の方々の底力を垣間見る思いでした。

まつりの内容は、文化芸能発表、文化作品展、体験コーナー、模擬店、福祉バザーでした。発表者の方々の多芸、多趣味には全く敬服するばかりです。演目を列挙してみます。文化芸能発表（吹奏楽、ダンス、剣道、杖道、合気道、舞踊、和太鼓、バンド演奏、民謡）、文化作品展（はがき絵、水彩画、短歌、俳句、書道、トールペイント、押し花絵、ちぎり絵、木工細工、エコクラフト、折り紙工芸、刺し子、手芸バック、パッチワーク、アメリカンフラワー、刺繍、人形、ハワイアンキルト）等々でした。

当日は延べ約1000人の来館者が訪れ、4年ぶりの公民館まつりをどうにか無事に開催することが出来ました。公民館にはまだまだたくさんの役割があります。これからも地域の皆様とともに歩んでいきたいと思っています。

舞台

作品展示コーナー

体験コーナー

睦合戸陵会

少子化の波を受けて

常任幹事　小澤　俊通（高24回）

昨年の出生数は80万人を切り、国が想定していた出生数を大きく下回る結果になりました。少子化は加速するばかりで歯止めがききません。人口減少社会は既に現実のものとなっており、国を支える労働生産人口も減少するばかりです。そのような状況の中で、私の経営する「幼児教育施設」の運営は厳しさを増す一方です。ずっと以前から、「少子化は静かな有事」と言われてきましたが、国の政策は、効果を生み出すことなく推移してきました。

私は令和4年5月に退任するまで、全日本私立幼稚園連合会の副会長を3期6年間、神奈川県私立幼稚園連合会の会長を4期8年間務めました。「幼児教育への予算は、未来への投資である」と繰り返し訴えてきましたが、なかなか実現せず、歯がゆい思いを抱いておりました。それでも、令和2年10月に「幼児教育の無償化」が実現し、まだまだ改善の余地があるものの、小さな一歩を踏み出すことが出来ました。

ようやく政府も、少子化は最大の社会問題と捉え、「こども家庭庁」を発足させ、施策を総動員させようとしています。大きな財政措置も必要でありましょう。「こども予算の倍増」が実現するよう今度こそ期待したいと思います。

社会の意識の変革が求められています。なによりもまず、子どもを持つことの喜び、子育ての楽しさを共有したいと思います。勿論、子育ては大変なことが多く、経済的にも負担が生じるでしょう。それでも、子どもの成長する姿は、家族全員の喜びであり、生活に潤いを与えてくれます。子どもの存在が、喜びや嬉しさを2倍に、そして悲しみを半減させてくれます。子どもが夢中になって遊んでいる姿を見ているだけで、私たちに幸福感を与えてくれます。明日への希望、夢そのものが子どもの存在です。もっと子どもの存在を認めることから始めて欲しいと感じています。

現在、私は厚木市に2園、相模原市に1園経営しておりますが、それぞれの園が地域に愛され、必要とされる幼児教育施設であり続けられるよう、努力を積み重ねて参りたいと思います。

バタ足キック

厚木田園幼稚園

有限会社
林プロパン商会
プロパンガス供給、工事
お気軽にご相談ください
厚木市下荻野1490
☎ 046-241-1043
代表取締役 高橋 健太郎（高51回）

地域活動支援センター
白根工房
知的・発達障害のある方14名が通所し、ケーキ作り、自主製品づくり等 様々な活動を行っています。
特定非営利活動法人しらね
理事長　永井　明（高30回）
〒243-0812 厚木市妻田北4-5-56
TEL/FAX 046-296-8711

丹沢大山国定公園
七沢温泉・民話の里
元湯 玉川館
〒243-0121 神奈川県厚木市七沢2776
TEL 046（248）0002
http://www.tamagawakan.co.jp
山本淳一（高14回）　山本孝史（高19回）

依知戸陵会

今回の低山登山は仏果山

前会長　大塚　定男（高20回）

もはや恒例となった感がありますが平成30年から始めた依知戸陵会の低山登山。

他戸陵会の企画便乗も含めてすでに5回登っていて今回が6回目、ほとんどベテランと言ってもよいのではないでしょうか、低山登山の。

今回はまだ流行病（はやりやまい）が治まらない令和４年12月１日、愛川ふれあいの村から高取山・仏果山を巡る登山を決行しました。

家を出るときには雨がパラパラしていたので、企画者の鈴木正次副会長（高20回）は「自分は雨男だ」と嘆いていましたが、登り始めるころには雨は止んだのでちょっとホッとしたようです。そして天気予報通り曇りときどき晴れで今季一番の寒い日になりました。

参加者は我が依知戸陵会が４人、厚木戸陵会が代理参加も含めて３人の合計７人でした。

県立愛川ふれあいの村から登り始めて最初の休憩ポイント「東の平」で小休止、ここから森の様子が変わり登山らしいコースとなります。途中、忘れ物に気がついて取りに引き返した人も出ましたが、そこは低山の良さ、次の休憩をとる前に何事もなかったかのように合流していました。１時間ちょっとで高取山に到着。予定より早く着いたのでさらに隣りの仏果山に登って、それから昼食にしました。

昼食中に急に曇ってきて、気温も下がってきたのでお昼休みもそこそこに先を急いだのですが、先はもう下りしかなかったので、あっという間に下山できてしまいました。

「疲労困憊気息奄々」を覚悟して登り始めたのですが、何事もなく無事下山出来ました。しかし、病蔓延の最中でもあるので、次回を約してこのまま解散することにしました。当初予定していた温泉、酒はおあずけです。

感想ですが、低山でも途中に痩せ尾根や鎖場、急な階段など歩きごたえのある箇所もあるし、山頂からの眺めも素晴らしく良くてこの点は百名山に劣らない、というのは大げさですかね。

もう一つ、正直なところ我々年寄りにはこのくらいの低山がちょうど良いように思います。

参加していただいた皆さん、ありがとうございました。

なお、次回からは厚木戸陵会と依知戸陵会共同開催を目指して企画していくことになりました。多くの方の参加をお待ちする次第です。

仏果山山頂にて

本立寺での歴史談議も

私の住んでいる依知の猿ヶ島には本立寺という日蓮宗のお寺がある。

ときどき寺の運営に関する総代会議がある。

現在３人の総代がいるが、私を含め３人とも厚木高校出身者である。一人は市立依知北公民館長を務めた大塚清一氏（高15回）、もう一人は昨年９月の同窓会報に原稿を寄せた福田弘夫氏（高17回）である。二人とも歴史が大好き。住職はといえば、どこの住職も歴史に詳しい。うちの住職も山梨出身ながら当山の住職になってから地区の歴史を勉強して随分詳しくなっている。３人で結構話が噛み合って議論をしている。

３時間位の会議のうち２時間半くらいが歴史のことで、寺務については30分くらいで決定する。

どんなことを話しているかというと、例えば北里大学の近くに立っている陸軍が来たことがわかる石碑についての考察とか、依知地区旧山際村の新田開発や秣場（まぐさば）のこととか、猿ヶ島にある共同墓地の配置についてとか、ときには鎌倉武士のこととか、微細なような深い話のような。

長い雑談をしていると思われるだろうが、どうして二人ともちゃんと史料を持ってきていて、それに基づいてああだのこうだのやっている。その史料については、厚木高校の先輩のつてを頼って手に入れているものもあるようだ。

毎回やっていてよくネタが尽きない、よく飽きないといつも思っている。

私は「理科系なので難しいことは分からない」と逃げている。本当に分からないので、理科系で良かったと思っている。

私の菩提寺の運営は、かくの如く進んでいる。良いのか悪いのか分からないが、まあ田舎らしくて気分は悪くない。

皆さんも機会があれば、こうした人間関係を持たれたらどうだろうか。実り多い人生の一助になるかもしれませんよ。（上から目線でごめんなさい。）

本立寺での総代会議

麺や食堂グループ
蔵味噌ラーメン晴っぴ
さんさん食堂
メリケン製麺
生餃子三宝
晴れパン
はっぴ商店唐揚げ
キミとホイップ
(株) SANTA CALA　望月 治男（高16回）

教科書
㈲内田屋書房
☎046-258-6722
代表取締役　内田 喜康（高13回）
■厚木市泉町4-1 第五内田ビル3F
■東京農大厚木キャンパス店

新川勉税理士事務所
相続税相談・法人個人申告・各種経営相談
電話　046-297-3186
税理士　新川　勉（高30回）

有限会社　サン不動産
不動産の売買・資産運用・賃貸物件の管理
電話　046-297-3191
代表取締役　新川大志
〒243-0016　厚木市田村町9-30

玉川・森の里戸陵会

人と地域の繋がりを 深める戸陵会活動

前会長　三橋　敬司（高18回）

厚木高校創立１００周年の機運に乗じて厚木市内各地で同窓会組織が設立され、戸室が丘にちなんで「戸陵会」と称し、頭に各地区名を入れて発足した。市内８地区の戸陵会が誕生し、その連合体として「厚木連合戸陵会」ができた。

玉川・森の里戸陵会は２００２（平成14）年４月27日に産声をあげ、以来20余年、先輩諸氏を始めとする同窓生の協力で充実した活動が展開されてきた。しかし、この３年間はコロナ感染防止のため多くの行事が中止になってしまった。

ここでは、今まで様々な活動を通して同窓生、地域が繋がり合ってきたことを紹介し、同窓会の意義を再確認し合い、今後の活動の参考にしていきたいと思う。

ハイキングで日向林道を散策

○文化講演会として
・「万葉集について」パートⅠ～Ⅴ（５回に分けての講義）
○秋の研修会として
・「蔵元見学と利き酒会」黄金井酒造
・市川屋材木店プレカット工場見学
・日産テクニカルセンター見学
・「酒蔵見学会」黄金井酒造
・神奈川リハビリテーション見学
・「ストーンとおちる七沢石の話」
○ハイキングとして
・日向薬師見学と日向林道散策
・歴史探索「玉川を遡る」
○その他
・石井清氏のパステル画個展への協力
・憶い出の杜への記念植樹
・『玉川・森の里戸陵会だより』発行（平成22年～平成30年）
・バーベキューを楽しむ会
・同窓会や厚木連合戸陵会の行事への参加

など、楽しい一時を過ごしてきた。総会や行事の後は必ずといって懇親会がセットされ、先輩後輩が地元の酒を酌み交わし、旨い料理に舌鼓を打ちながら交流を進めてきた。こうした交流を通して人を知り、繋がり、地域の歴史や特色を知るなど、より幅広い見識を持つことができ、同窓会の良さを感じることができた。

厚木戸陵会①

〝食は世につれ、世は食につれ〟

望月　治男（高16回）

高校卒業後は家業を継ぎました。父が１９５４（昭和29）年５月に「喫茶ブラジル」という屋号で、現在の厚木中央図書館がある場所で営業を始めました。当時はまだ戦後の後始末に追われていた大変な時代で、米を腹一杯食べたいという食糧難の時代でした。駅に近く立地は良かったのですが、コーヒー１杯25円でも売り上げは上がらず、わずか６カ月で店を閉じることとなりました。

その後、昭和30年３月現在の幸町に場所を移し「食堂ブラジル」として再出発しました。この年は厚木町、睦合村、小鮎村、玉川村、南毛利村の１町４村の合併により、厚木市が発足した年になります。

相模大橋が開通し、近代化の波に乗り始め、店の営業も伸びていきました。厚木市の人口が10万人を超えるころ、店は店舗も出前も大忙し。あっという間に月日が過ぎてしまいました。

あれから70年、来年度は市政70周年です。うちの家業も現在は息子が３代目として店と会社を拡大し、現在は13店舗まで増えました。

今も昔も変わらないラーメンを提供し、お客様の一口目に見せる笑顔が永遠に続いて欲しいと願っています。店の規模も信じられないほど大きくなり、社員やアルバイトも片手で数えられる人数から、今では３００人を超えました。しかし、お店を支え成長させてくれたのはお客様です。70年間で大きな変化がありましたが、お客様と店の「心」は変わることのないものだと思っています。

現代は和洋中なんでも手に入る世の中となりましたが、作り手の気持ちが表れ、どの世代も好んで食する国民食となったラーメンが重要な役割を持っていると感じています。皆様に愛されるラーメンを提供し続けられるよう、若手のサポートや見守り役に徹していきます。

私自身70歳で引退し、やっと自分の時間を有意義に使い始めました。念願だった大学への通学も始めました。歴史の勉強を楽しんでいます。厚木戸陵会に入会し活動を拝見させてもらっています。今後は戸陵会活動にも協力していこうと思っています。

ラーメンは今や国民食となった（麺や食堂本店）

厚木戸陵会②

３年ぶりに復活した諸行事 総会・懇親会も対面で

厚木戸陵会（橋本和己会長・高18回）の設立経緯は、上段の〈玉川・森の里戸陵会〉と同様で、２００２（平成14）年春の発足以来、同窓会本部の事業・行事への参加をはじめ、支部総会や数カ月ごとの定例役員会、独自の懇親会イベントなどを行って来た。

コロナ禍で約３年、これらの活動が〝休業〟状態であったが、ようやく以前に戻って来た。

５月28日、３年ぶりに復活した対面による通常総会、８月26日のバーベキュー会での夏季懇親会。久しぶりに会う顔ぶれに加えて、新たな参加者も出来、会話が大いに盛り上がりを見せた。

このあとは、９月16日（土）の「創立１２０周年記念式典・祝賀会」、10月21日（土）の「第18回青春かながわ校歌祭」、同23日（月）の「第８回チャリティゴルフコンペ」、11月18日（土）の「憶い出の杜に親しむ会」が予定されている。

なお厚木戸陵会は本年５月の総会で、創立１２０周年記念募金の趣旨に賛同し、母校支援のため厚木高校同窓会に10万円の寄付を行うことを決めている。

広報委員　池田　清（高19回）

新しいメンバーも仲間入り

バーベキューでの夏季懇親会（8月26日）

さくら戸陵会

内山順造院長（高33回）を講師に第10回総会開催

土屋　由子（高32回）

第10回さくら戸陵会総会及び講演会が昨年11月13日、母校の厚木高校2階PC教室にて開催されました。年度の初頭に計画を立てた時点では、感染者が減少傾向にありましたが、11月に入ってからはまた増え始め、参加者の方々に感染対策をお願いしての開催となりました。

当日は厚木高校から大沢利郎校長、同窓会本部から熊坂隆光会長、志村祐一同窓会事務局次長にご臨席いただきました。ちなみに平成26年に実施した第2回さくら戸陵会総会では、当時熊坂会長が社長をなさっていらした産経新聞社にて総会を開催させて頂き、熊坂会長に講演をして頂いています。

今総会の後、南毛利内科内山順造院長（高33回）に講演をして頂きました。内山院長の講演は3年前に台風で中止となっており、その後はコロナウイルスの蔓延で、総会とそれに伴う講演会等も開催できない状況が続いておりました。昨年度、講演会をするならぜひ、内山院長にお願いしたいという希望を快諾してくださり、講演が実現いたしました。演題は「激動の時代を健やかに若々しく生きる──アンチエイジングとパンデミック」という、まさしく私たちの今の生活に沿った、興味を引く内容のものでした。内山院長はウイルス学の研究をされていて、コロナ発生当初、災害医療チームの一員として「ダイヤモンドプリンセス」に乗船し、医療活動に従事されました。その経験を生かし、神奈川県医師会公衆衛生委員会副委員長、厚木医師会PCR検査センターの責任者をされ、コロナウイルス対策の正しい知識、クラスター予防方法の普及に努めておられます。

内山順造院長

写真や資料を交え、分かりやすく説明してくださり、新型コロナの情報を正しく知り、正しく警戒することを教えていただきました。また、アンチエイジング（抗加齢医学）を実践するためトライアスロンの大会に自ら参加なさり、その成果を学会で発表されている話もされ、終始ユーモア溢れる講演でした。企業をはじめ、中学・高校でも内山院長の講演は好評だというのも納得いたしました。参加者からは今回の講演を聞いて、健康で長生きしたいとの思いが募ったとか、自分の生活を見直したいと言う感想を頂き、大変有意義な時間を持つことができました。

今回のような長期間にわたって様々な活動が中止される状況は、誰もが未経験のことでしたが、徐々に社会全体の活動が再開されております。さくら戸陵会の活動も今回で10回を数え、登録者数は188人となりました。今後の活動については、未確定ではありますが、会員の皆様のご希望を踏まえ、より良い方向に進めてまいりたいと思っております。

第10回さくら戸陵会総会

平塚戸陵会

新米公民館長の1年間を振り返って

幹事長　渡辺　兼行（高19回）

校歌に謳う「御国の理想いかしく立てり」を「地域の理想」と読み替え地域の活動に係わる新米公民館長の1年間を振り返ります。

富士見公民館区域は、人口15,600人、高齢化率は30%で市内各地区の第6位に位置し、着実に高齢化の波が押し寄せています。

公民館が主体となる、または深く係わる主要な事業は3つあります。

10月の地区レク大会、1月の賀詞交歓会、3月の公民館祭りです。

地区レク大会の検討に当たり、「コロナ感染症対策の徹底。声出し応援禁止。飲食全面禁止。大会を通して地域の人々が触れ合い、絆を強め災害時などの助け合いの機運を醸成する。」を確認し、10月2日（日）3年振りに各地区のテント14張り826人の参加を得て、笑顔と割れんばかりの拍手を得た地区対抗のリレーなど9種目を実施しました。

次に賀詞交歓会は、本来趣旨の団体間の繋がりや結束を強め豊かで一体感のある地域作り推進の為、飲食を伴わない形で1月8日（日）に70名程の参加を得て行い、卓上を始め会場を飾る鉢植えの花の抽選会は、当選の歓びから相当の盛り上がりを見せました。

最後に公民館祭りも、文化団体の活動成果の貴重な発表の場。コロナの状況は厳しい。感染対策の徹底と祭りの楽しさを演出する模擬店等の実施を確認しました。

3月4日（土）5日（日）の両日に実施し、小規模な公民館ながら入館者は1，162人に達し、祭り行事への期待の高さを実感しました。

芸能発表は11演目。若い女性のジャズダンス、小学生ながら独り舞台の舞踊、太鼓の祭囃子等々会場の盛り上がりが最高潮に達しました。

展示は13団体で、小・中学生の絵画やユニークなペン画等300作品程を飾りつけました。

模擬店の焼き鳥、焼きそば、うどんソバ、生花等すべて完売し、催し物では、射的ゲームや輪投げゲームなどで子供達が大いに盛り上がっていました。

以上の3つの行事などを通して、コロナ感染症が猛威を振るった数年間のなかで抑圧されながらも、多くの人が人と人との繋がりや触れ合いを求め大切にしようとする心を感じるとともに、そうした思いを地域の皆様と共有できた1年間でありました。

スタッフと

浦　恭子税理士事務所
所長　浦　恭子（旧姓：赤津）高36回
〒245-0008 横浜市泉区弥生台6-35
TEL045-811-9332
※他　行政書士在籍

七輪炭火焼肉　味ん味ん
これからも皆様の期待に
応えられるよう努力していきます
株式会社味ん味ん
代表取締役　三上　賀通（高36回）

MIHIRA CLINIC みひらクリニック
〒242-0023
大和市渋谷4-8-4スカイステーション101
TEL 046-201-2220　FAX 046-201-2221
院長　三平　将彦（高36回）

海老名戸陵会

陽性です！

広報委員　山﨑　久男（高19回）

「ああ、喉が腫れていますねえ・・・コロナの検査してみますか」

「えっ！やってもらえるんですか・・・お、お願いします」

鼻に長い綿棒を入れられて検体を採られた後、カーテン越しの長椅子で待っていると、間もなく名前を呼ばれた。

「やっぱり、陽性ですな」

昨年の9月中旬、コロナ感染の第7波が下火になってきた頃のことだ。喉の痛みと37度の微熱が3日ほど続いていたので耳鼻咽喉科を受診した。思いも寄らず〝陽性〟と宣告されたのだが、処方されたのは、喉の炎症緩和、咳止め、それに解熱等の薬だけだった。ニュースで話題になったコロナ治療新薬の話はなく、自宅で養生するよう指示された。

（コロナの薬じゃないんだ）

（ワクチン接種したばかりなのに）

（電車にも乗らなかった）

（店の出入りだって、これでもかと消毒している）

（歯医者には行ったな）

（友達と久し振りに居酒屋で飲んだけど）

（年も年だし、免疫力低下か）

（持病もあるし）

（急変したら重症化か）

（もし、後遺症が出たら）

薬局からの帰り道、何とも言いようのない不安が渦巻いて足取りは重かった。

この日から、自宅療養が始まった。保健所から電話があり、体調はどうかと聞かれた。今後、「神奈川県自己宿泊療養しおり」（パソコンで入手）に従うこと、相談は、神奈川県療養サポートセンターに、体調悪化の急変時には「コロナ119番」に連絡するようにとのことだった。

翌日、パルスオキシメーター（血液中のSPO2（酸素飽和度）計測機器）が送られてきた。『数値が93以下になった場合はコロナ119番に相談』とあり、さっそく、恐る恐る人差し指を挟み込んで数値を見つめた。〝98〟だ、正常！と思わず声が出てしまった。

日が経つにつれ、唾を飲み込むことさえ辛かった喉の痛みは、徐々に軽くなっていった。寝汗をかくことも少なくなったが、気怠さは続き、寝たり起きたりを繰り返した。

毎朝、療養サポートセンターからLINEメールが届き、息苦しさの有無、体温、SPO2の数値を入力した。その画面の最後には、注意喚起を促す次のような一文が添えられていた。

『【重要】次の項目に1つでも当てはまった場合は、すぐに下の「コロナ119番」をタップし、電話をおかけください』。

・顔色が明らかに悪い
・唇が紫色になっている
・息が荒くなった（呼吸数が多くなった）
・日常生活の中で少し動くと息が上がる
・胸の痛みがある
・横になれない
・座らないと息ができない
・肩で息をしている
・ゼーゼーしている
・吐き気を伴う頭痛がする
・ぼんやりしている（反応が弱い）
・もうろうとしている（返事がない）
・脈がとぶ、脈のリズムが乱れる感じがする（今までなかった）

毎回、これらに目を通していると、何かしらの兆候が現れてきているような気がして〝疑心暗鬼〟となった。

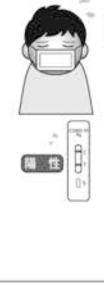
そんな中、高熱と咳で自宅療養中の旧友と電話を掛け合うようになった。胸の痛みはないか、食欲はあるか、昼間、何をしているのか、テレビは飽きた、夜眠れなかったら「ラジオ深夜便」（NHK）がいいなど、たわいがない話で、ついつい長電話になった。それでも、これが結構、退屈凌ぎや励みになった。電話を終えると、決まって〝同病相憐れむ〟の句が頭に浮かんだ。

幸いだったのは、妻が陰性だったことだ。私は二階、妻は一階という別居状態になってしまったが、食事の用意はもちろんのこと、買い物も愛犬の散歩もすべて妻が担い、暮らしの心配はなかった。後になって、友人から「君は陽性で、奥さんは〝陰性〟だったんだよね・・・夫婦生活は大丈夫だったの？」と茶化されてしまったが、あらためて妻の支えの有難さを実感する日々だった。

自宅療養が、やっと終わった。随分長く感じた7日間だったが、これといった後遺症はなく元の生活に戻ることができた。私とは比べようもない苦悩の療養生活を余儀なくされている方のことを思うと気の毒でならない。

昨年末、神奈川県内の感染者数が、1日、1万2千人を超えていた第8波は、今年2月に入って2千人台と沈静化してきた。国内の死者数は高止まりのままだが、国は、このコロナを感染症法上「2類」から季節性インフルエンザと同じ「5類」に5月から引き下げると報じた。ワクチンや治療薬の開発が進んでいるとはいえ、いつか、また、感染するかもしれないという不安は、何かにつけて頭をよぎる。

今秋、延期されていた同窓会主催の厚木高校創立120周年記念式典が行われる頃には「3密」も「黙食」も「消毒・手洗い」も「マスク着用」も笑い話になっていることを期待している。



綾瀬戸陵会

あの人に会いたい

会長　見上　正信（高23回）

今も手許にある一枚の年賀状。

昨年5月にご逝去された木藤延雄先輩（高12回）からいただいた最後の年賀状です。先輩とは2005年に「地区社協」設立を通じて親交を深めてきました。その後も地元自治会の役員として、様々な活動を共にし、「まちづくり」を熱く語り合ったものです。自治会主催の「文化展」の企画・準備や活動をタイムリーに伝える「ニュース」の発刊などその作業の進め方には、私自身も感心させられた想い出が甦って来ます。

本人と故 木藤先輩（写真右側）

綾瀬戸陵会の再始動に際しても積極的に参画され、活動を支えていただきました。

残念ながら病魔に襲われ、治療に専念せざるを得ない状況となってしまい、その間、コロナ禍でお会いすることも出来ませんでした。新聞部のOBとして文筆に優れ、いつもいただく葉書には、その時々の想いをびっしり綴ってありました。今思い出してもありがたい提言ばかりです。

「会いたかった」「杯を傾けながら話をしたかった」、そんな気持ちがいまだに消えません。今は先輩の冥福を祈り、期待に恥じない生き方をしたいと思うばかりです。

綾瀬戸陵会も、いつまでも「会いたい人」に「会いたい時」に会える場所にしていきたいと思っています。

扉座
主宰／劇作家・演出家◎横内謙介（高32回）
俳優◎岡森 諦（高32回）　俳優◎六角精児（高33回）
劇団扉座第76回公演
あの名作を熱烈上演!!
脚本・演出◎横内謙介
詳細は扉座HPへ https://tobiraza.co.jp
11月25日（土）・26日（日）千葉市美浜文化ホール
11月29日（水）～12月3日（日）紀伊國屋ホール
（問）扉座 03-3221-0530

「おかげさまで56周年」
炭火七輪 珍滿 ホルモン
大和 南林間
昭和四十二年創業
菊地　努（高45回）
営業時間　火～金曜日 17:00～23:00　定休日：月曜日
土・祝日 16:30～23:00
日曜日 16:30～22:00
住　所　〒242-0006 大和市南林間2-10-9
電　話　046-275-0590

OPERA LAND
コンサートプロデュース・CD制作
音楽教室・レンタルレッスンスタジオ
Facebook森口賢二公演情報➡
森口 賢二（高44回）
http://operaland.ciao.jp/
info@operaland.ciao.jp
住所：〒186-0002 国立市東1-3-15 国立ダイカンプラザ103

愛川戸陵会

令和４年『憶い出の杜』の整備

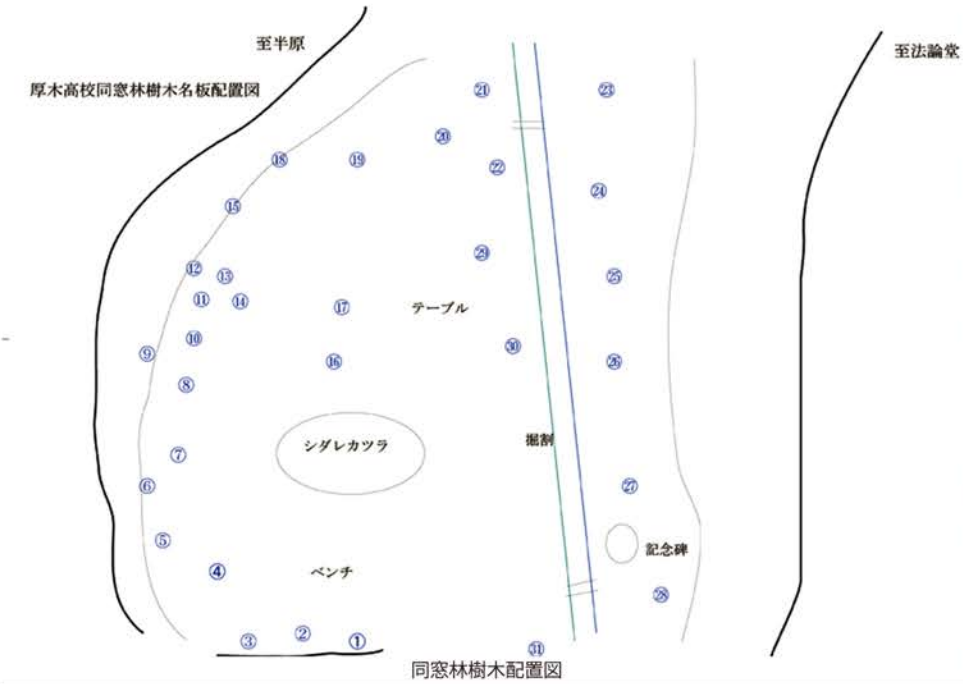
広報委員　大貫　洋（高25回）

コロナ禍で3年続いて中止となりました「憶い出の杜に親しむ会」ですが、厚木高校創立120周年記念事業の一環として、「憶い出の杜」に100周年を記念して植樹された記念樹の整備（樹木名の確認・木札付け）を実施しました。

まず例年のように9月28日（水）に、愛川町森林組合の協力を得て下草刈りと高枝の剪定をした後、10月3日（月）「同窓林樹木配置図」をもとに、樹木の確認と木札の作成をしました。11月19日（土）「憶い出の杜」の整備と樹木の木札付けを、本部熊坂会長以下3名、相模原戸陵会4名、愛川戸陵会13名参加のもと実施しました。

この後、愛川戸陵会では、予定されている「120周年記念事業」と「憶い出の杜に親しむ会」再開について協議をしました。さらに、「山火事防止」と「車両乗り入れ禁止」の啓発看板を更新しました。

年が変わり春暖かくなってから『ハナモモ』の開花を（3月24日）確認しました。



同窓林樹木配置図

熊坂会長による木札付け

樹木名の確認

参加者の集合写真

No.	樹木名1	和　名
1	萵苣の木	エゴノキ
2	伊呂波紅葉	イロハモミジ
3	伊呂波紅葉	イロハモミジ
4	榧	カヤ
5	大葉夜叉五倍子	オオバヤシャブシ
6	欅	ケヤキ
7	紫式部	ムラサキシキブ
8	大葉夜叉五倍子	オオバヤシャブシ
9	榧	カヤ
10	大葉夜叉五倍子	オオバヤシャブシ
11	大葉夜叉五倍子	オオバヤシャブシ
12	大葉夜叉五倍子	オオバヤシャブシ
13	大葉夜叉五倍子	オオバヤシャブシ
14	大葉夜叉五倍子	オオバヤシャブシ
15	榧	カヤ
16	大葉夜叉五倍子	オオバヤシャブシ
17	大葉夜叉五倍子	オオバヤシャブシ
18	油瀝青	アブラチャン
19	白樫	シラカシ
20	犬四手	イヌシデ
21	山桜	ヤマザクラ
22	白樫	シラカシ
23	枝垂れ桜	シダレザクラ
24	櫟、椚	クヌギ
25	夏椿	ナツツバキ
26	山法師	ヤマボウシ
27	三葉躑躅	ミツバツツジ
28	欅	ケヤキ
29	金木犀	キンモクセイ
30	楢	コナラ
31	萵苣の木	エゴノキ

樹木名一覧（番号は同窓林樹木配置図による）

湘南台 SHONANDAI Neurosurgery Clinic
脳神経外科クリニック
院長　落合　周太郎（高36回）
脳神経外科・内科　https://shonandai-neuro.jp
TEL.0466-45-5500
〒252-0804 藤沢市湘南台 2-7-15
東急ドエルアルス湘南台アネックス1F

ショー歯科医院
院長　歯科医師
新野見　昇一（高36回）
〒252-0002 座間市小松原1-26-22遠藤ビル1階
TEL 046-255-0118
○座間市歯科医師会 常務理事
○国際和合医療学会 理事

大野歯科医院
院長　大野　真一（高37回）
診療時間　8：00～19：00
なるべく歯を抜かない、削らない！
天然歯の保存に力を入れています
TEL 0463－81－8243
〒257－0035
神奈川県秦野市本町一丁目４番２０号

津久井戸陵会

津久井の城山から見えるもの

広報委員　小室　久敏（高20回）

津久井の城山は相模原市の北方、津久井地域の入り口に構える標高３７５メートルの山である。１９６５年、麓に高さ75メートルの城山ダムが作られた。相模川がせき止められ津久井湖が形成された。雲が無い日に頂上から西を見れば丹沢山地の山々、そして美しい富士山がある。南東から東を眺めれば横浜、東京都心の高層ビルやスカイツリーを堪能できる。

太平洋戦争末期の東京大空襲時の真っ赤な炎は何回も見られたはずだ。特に１９４５年３月10日の夜間空襲は大きな被害をもたらした。１９２３年の関東大震災の大火災も三日間続いた。連合国軍最高司令官ダグラス・マッカーサーが厚木基地に降り立ったのは１９４５年８月30日であった。この厚木基地には第42代米国大統領ジョン・Ｆ・ケネディを暗殺したとされるリー・オズワルドが１９５７年から１９５８年にかけて勤務していた。

さらに時代をさかのぼると鎌倉時代に初めて山頂に城が作られたという。本格的に城として使われたのは戦国時代・後北条氏の時でこの地は甲斐（山梨県）と小田原を結ぶ要所であった。１５９０年、豊臣秀吉の小田原征伐にともない津久井・城山も開城し、その後廃城となった。

相模原市緑区には縄文時代中期から後期にかけての川尻遺跡（５５００年～３５００年前）や寸沢嵐遺跡（４５００年～４０００年前）がある。またお隣、高尾山の麓の荒井では縄文早期（８０００年前）の遺跡が発見されている。

東アフリカで生まれたホモサピエンスは６万年前にアフリカを離れてグレートジャーニーを続け４万年前ぐらいに日本へ到着したと言われている。そして徐々に数が増えていったのであろう。２０２３年前、西暦元年には３億人と推定された世界の人口は今、80億を数えるに至った。今、ロシアによる国連憲章違反のウクライナ武力侵攻で夥しい人命の損傷が起きている。人類の来し方行く末をじっくり注視していく必要があるのだろう。

津久井湖と城山

秦野戸陵会

第54回秦野戸陵会総会

事務局長　大野　真一（高37回）

令和４年11月12日（土）秦野商工会議所会館にて第54回秦野戸陵会総会が開催された。参加同窓生は30名であった。コロナ流行を鑑みて第52回、第53回と書面による総会であったことを考えると３年ぶりの人の集まる〝総会〟がとても嬉しかった。

通常総会を終え、引き続き講演会が始まる。今回石井孝氏（高28回）を講師にお迎えし、「警察分野の国際協力と地域における多文化共生」と題して、これまでの経験をスライドを交えて講演して頂いた。石井氏は警察現職時代に12年間、ＪＩＣＡ勤務時代４年間と海外勤務が長く、時折テレビでも放映されたブラジルでの交番制度普及などに尽力された方である。仕事とはいえ、南米、中央アジア、アフリカと訪問されたどの国も、犯罪や病気など危険な国が多かったと思うが、そうした中でも実績を上げてこられたのは、日本にとっても素晴らしいことと思う。

さて続いてのお待ちかね、懇親会。今迄お馴染みの諸先輩方が段々と減っていく中、今回私より若い世代の同窓生（それも女性）が参加してくれたのはとても嬉しいことだった。秦野戸陵会に女性会員が居ない訳ではないけれど、定着率とか参加率がイマイチなのは事実。一人でも多くが同時参加してくれれば、定着率も上がるのではと、「次も来てくださいね」の念押し一しきり。今後の本会の発展を願って女性の参加しやすい会の運営というのも大事だと思った次第である。そうこうしている内に歌の時間が到来。懇親会の〆は元応援団長の山口薫氏（高29回）による指揮の下、校歌斉唱。心を一つに熱唱し、楽しい懇親会終了です。また次回も歌うぞと心を新たに、一日を終えました。

熊坂同窓会長を迎えた総会

同期会便り

今年も出来たよ、ゴルフコンペ！

平塚戸陵会会長　落合　重治（高13回）

今年のゴルフコンペのスタートは３月22日本厚木ＣＣ、とても暖かい日に開催出来ました。

メンバーは７名で東京や熱海から駆けつけてくれました。第１回のコンペの24名に比べ少なくなったな、そしてドライバーの飛距離も、ナイスショットで１８０ヤード、ニヤピンも４ホール挑戦するが１ホールは必ず残る！みんなのため息と言葉は必ず（年取ったな、81歳だよ、ゴルフが出来るだけ良いんだよな）これが厚高13回生「厚高三六会」です。第52回の優勝は熱海から参加の清水雅晴さんでした。

写真左側が優勝の清水さん、右側が幹事の落合

大正１２年創業　和菓子店
御菓子司
二葉
季節の和菓子　製造販売
営業時間：９時～１７時半
（日曜定休・月１回平日不定休あり）
住所：〒２４３－０４３３
海老名市河原口二丁目２１－１２
電話：０４６－２３１－０４５８
代表：大久保　尚見（高２６回）

北相模総守護社
亀ヶ池八幡宮
宮司　根岸　信行（高９回）
神奈川県相模原市中央区上溝1678
☎042-751-1138
https://www.kamegaike.jp/

ITで笑顔を創造する
アイフォーコム®
iFORCOM
代表取締役　加川広志
（高25回 津久井戸陵会 フェンシング部）

同窓会本部役員・理事・支部役員　〈令和５年９月１日現在〉

【同窓会本部役員】

会長	熊坂　隆光	(高19)
副会長	松本　茂	(高20)
副会長	杉岡　芳樹	(高21)
副会長	福島　豊	(高21)
副会長	米山　和久	(高23)
副会長	石射　正英	(高24)
副会長	八田　育子	(高24)
副会長	中山　和男	(高26)
副会長	新川　勉	(高30)
副会長	武藤　俊宏	(高30)
監事	園田　教智	(高24)
監事	井澤　郁人	(高29)

【同窓会本部事務局】

事務局長	米山　和久	(高23)
事務局次長	志村　祐一	(高24)
事務局次長	松下　博俊	(高33)
会計	安藤　康恵	(高26)
会計	長田　靖子	(高33)

【理事】

1	小沼　富夫	(高29)
2	山口　薫	(高29)
3	成瀬　貞司	(高22)
4	岡崎　雄二	(高15)
5	三沢　賢一	(高21)
6	齋藤　昌代	(高26)
7	大貫　邦重	(高16)
8	八田　誠	(高36)
9	鶴指　眞澄	(高15)
10	石川　創一	(高18)
11	内野　喬	(高17)
12	石射　嘉一	(高22)
13	大沢　弘	(高25)
14	大塚　定男	(高20)
15	足立　一彦	(高17)
16	劔持　典子	(高26)
17	頼住　道夫	(高22)
18	小渕　正志	(高18)
19	梶山　光男	(高22)
20	小菅　和夫	(高19)
21	山田　和彦	(高24)
22	山本　智子	(高28)
23	高橋　昌和	(高27)
24	伏見　清	(高18)
25	中山　和男	(高26)
26	町山　良行	(高11)
27	伊藤　学	(高30)
28	阿部　洋	(高22)
29	真崎　和秋	(高22)
30	今井　雅裕	(高26)
31	石井　孝	(高28)
32	小川　均	(高22)
33	清水　隆敏	(高22)
34	泊瀬川　孚	(高14)
35	入澤　隆	(高16)
36	福島伸一郎	(高36)

【各地区同窓会支部】

1. 伊勢原戸陵会
会長　三橋　要　(高21)
事務局長　齋藤　実　(高25)

2. 秦野戸陵会
会長　松永　光弘　(高24)
事務局長　大野　真一　(高37)

3. 津久井戸陵会
会長　菅野　敬子　(高18)
事務局長　成瀬　貞司　(高22)

4. 平塚戸陵会
会長　落合　重治　(高13)
幹事長　渡辺　兼行　(高19)

5. 相模原戸陵会
会長　杉岡　芳樹　(高21)
事務局長　古井　隆一　(高30)

6. 座間戸陵会
会長　大矢　正次　(高14)
事務局長　齋藤　昌代　(高26)

7. 愛川戸陵会
会長　大貫　邦重　(高16)
幹事長　井上　隆　(高17)

8. 川崎市多摩麻生戸陵会
会長　町山　良行　(高11)

9. 綾瀬戸陵会
会長　見上　正信　(高23)
事務局長　八田　誠　(高36)

10.海老名戸陵会
会長　三橋　正春　(高18)
事務局長　鶴指　眞澄　(高15)

11.三浦半島戸陵会
会長　伊藤　学　(高30)

12.大和戸陵会
会長　石川　創一　(高18)
事務局長　長田　靖子　(高33)

13.藤沢戸陵会（旧御所見）
会長　大貫　睦男　(高17)
事務局長　伊東　満　(高25)

14.厚木連合戸陵会
会長　石射　正英　(高24)
幹事長　石射　嘉一　(高22)
事務局長　大沢　弘　(高25)

① 厚木戸陵会
会長　橋本　和己　(高18)
事務局長　新川　勉　(高30)

② 依知戸陵会
会長　鈴木　正美　(高23)
事務局長　清水　功　(高24)

③ 睦合戸陵会
会長　平野　亮二　(高27)
事務局長　山口　茂幸　(高28)

④ 荻野戸陵会
会長　伏見　清　(高18)
事務局長　土屋　忠之　(高22)

⑤ 小鮎戸陵会
会長　頼住　道夫　(高22)
事務局長　遠藤　美行　(高15)

⑥ 南毛利戸陵会
会長　小渕　正志　(高18)
事務局長　渡辺　和男　(高21)

⑦ 玉川・森の里戸陵会
会長　梶山　光男　(高22)
事務局長　三橋　功　(高29)

⑧ 相川戸陵会
会長　小菅　和夫　(高19)
事務局長　小塩　恒夫　(高22)

15.清川戸陵会
会長　山田　和彦　(高24)
事務局長　落合　秀夫　(高27)

16.新潟戸陵会
会長　青木　茂治　(高9)
事務局長　齊藤　勝司　(高8)

17.関西戸陵会
会長　齊藤　十内　(高16)
事務局長　福本　豊　(高28)

18.さくら戸陵会
会長　八田　育子　(高24)
事務局長　山本　智子　(高28)

同窓会ホームページのご案内

同窓会本部では、公式ホームページを開設しています。主な内容は次の通りです。

http://www.atsukou-dousou.org

【同窓会概要】
本部役員紹介／会則／母校教育振興基金規定／活動活性化補助金交付要綱／会費についてなど

【学校の歴史・校歌】
沿革の大要／神奈川県第三中学校創立略史／同窓林の歴史など

【お知らせ】
同期会・OB会情報／バックナンバーなど

【総会報告】
総会資料／写真集など

【支部会のご案内】
各支部の活動報告など

【同窓会会報】
会報バックナンバー／各支部会報／部活OB会報など

動画や写真など、多彩な内容でお伝えしています。

事務局便り

校内事務局スタッフ7名で

今年度は次の7名の人員で同窓会の校内役員としてご協力いただくことになりました。

・事務局次長／谷田和久（高29回）
・事務局総務／谷田和久
　菅井久男（高31回）
・会計＝本部／魚谷志磨子（高36回）
　池田優太郎（高59回）
・会計＝部活動支援基金／
　内野秀明（高30回）
　高橋祐有（高56回）
・同窓会名簿／谷田和久
　大塚晃子（高53回）
・校　歌　祭／菅井久男
　池田優太郎

編集後記

◉昨年4月に創立120周年を迎えた母校を記念しての特集号とした。特集①ではコロナ禍で1年先送りとなった同窓会関連行事の一覧。メインは9月16日(土)の記念式典、講演、祝賀会。中でも六角精児さん(高33回)のバンド演奏を楽しみにしている参加者も多い。

◉特集②では多方面で活躍中のOBに現況や厚高在学時の思い出などを寄稿してもらった。その中の一人、数学教師を退職後、写真家に転身した中野賓さん(高11回)。今回特集にマッチした表紙の写真をご提供いただいた。

◉同窓会行事を取材するたびに思うこと、それは卒業からすでに数10年以上経っているOB・OGたちが、僅か3年の思い出を今だに熱く語り合う姿である。同窓会とは摩訶不思議なものである。（池）

2020-23年　広報委員会委員（令和5年4月1日現在）

役職	氏名	卒回	所属戸陵会
委員長	廣木　孝幸	(高19)	同窓会本部（副会長）
副委員長	八田　育子	(高24)	同窓会本部（副会長）
委員	齋藤　実	(高25)	伊勢原戸陵会
委員	安齊　達也	(高43)	秦野戸陵会
委員	小室　久敏	(高20)	津久井戸陵会
委員	倉本　憲一	(高27)	平塚戸陵会
委員	梶野眞知子	(高23)	相模原戸陵会
委員	鳥羽　克彦	(高38)	座間戸陵会
委員	大貫　洋	(高25)	愛川戸陵会
委員	八田　誠	(高36)	綾瀬戸陵会
委員	山﨑　久男	(高19)	海老名戸陵会
委員	天岸　壽昭	(高21)	大和戸陵会
委員	渡辺　真一	(高21)	藤沢戸陵会
委員	大沢　弘	(高25)	厚木連合戸陵会
委員	池田　清	(高19)	厚木戸陵会
委員	大塚　重雄	(高28)	依知戸陵会
委員	永井　明	(高30)	睦合戸陵会
委員	難波　伸幸	(高22)	荻野戸陵会
委員	臼井　志信	(高30)	小鮎戸陵会
委員	小島　聡	(高33)	南毛利戸陵会
委員	越智　裕	(高25)	玉川・森の里戸陵会
委員	山田　和彦	(高24)	清川戸陵会
委員	劔持　典子	(高26)	さくら戸陵会
委員	米山　和久	(高23)	同窓会本部（事務局長）
委員	志村　祐一	(高24)	同窓会本部（事務局次長）
委員	松下　博俊	(高33)	同窓会本部（事務局次長）

同窓会名簿の適切なご利用をお願いいたします。　事務局